

幼 兒 教 育

第 三 卷 二 月 號 第 二 號



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內
日 南 幼 稚 園 協 會

生徒募集

本科 生 四 十 名

研究科 生 若 干 名

願書受付 三月三十一日まで

規則書は貳錢郵券封入申込まれよ

創立以來十四年。

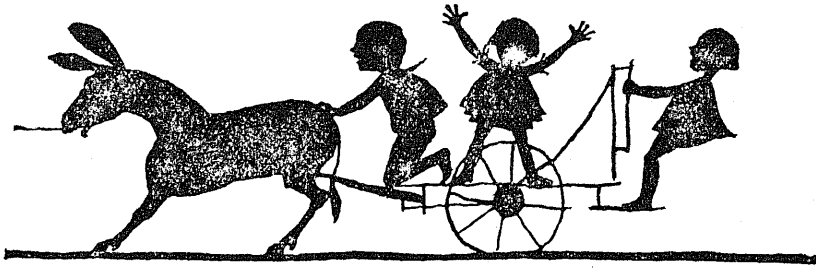
大正五年東京市麴町區に創立。

昭和二年武藏野の一遇なる現在地に新築
附近に森あり、川あり、野ありて四時自
然の恩恵をうけ、本校の特色とする、自
然觀察、博物採集、自然物應用の手工材
料豊富なり。

玉成保姆養成所

所長 ソフアヤ アラベラ アルウキン

東京市外高井戸町中高井戸一三三三
省線西荻窪下車直南約五丁



育教の兒幼 輯編會協園稚幼本日

會長
主幹

東京女子高等師範學校校長
東京女子高等師範學校教授
附屬幼稚園主事

吉岡郷甫
堀七藏

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ル
テ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ
關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノ
トス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五
錢ヲ齎出スヘシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業
ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員
トナスコトアルベシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會
ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ
請ヒテ地方委員トナスコトアルベシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場
合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
- 一、幼兒教育ニ關スル研究及ビ調査
一、幼兒教育ニ關スル講演會及ビ講習會ノ
開催
- 一、雜誌發行(毎月一回)
-
- 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
- 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
- 一、其也本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル
事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 會長 一名 會務ヲ總理ス
- 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌
理ス
- 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ
分掌ス
- 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長
ノ諮詢ニ應ズ
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノト
ス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年ヲ期
シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ
又ハ書記ヲ雇入ル、アトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二
以上ノ同意ヲ得ルニアラザレハ變更スルコ
トヲ得ズ



第 三 十 三 卷 幼 兒 教 育 の 第 二 號

—(次 目)—

口 繪 櫻 雜

おまゝごと

保育時間に関する諸問題……………	堀 七 藏……………	(二)
七八歳の頃……………	デニキ 喜 一……………	(三)
醫師の立場より見たる幼稚園と急性傳染病……………	島 信……………	(九)
ストロブを圍んで——遊戯についてはなし——……………	東京女子高等師範學 校附屬幼稚園……………	(三)
幼兒の握力調査……………	氏 原 銀……………	(四)
五十餘年前大阪より保育見習のため上京せし 思出……………	膳 眞 規 子……………	(四)
關西保育大會の今昔……………	大 塚 喜 一……………	(五)
おはなしについての反省……………	水 谷 年 恵……………	(五)
幼 兒 漫 談……………	菊 地 ふ じ の……………	(五)
人形お菓子の家……………	及 川 ふ み……………	(六)
櫻雛のつくり方……………	大 岩 金……………	(六)
シネラリヤ……………		
遊 戯 輪 あ そ び……………		(七)
雜 錄 久保氏の通信、保育實習科生徒募集・本年三月卒業の保育實習科生徒……………		

生徒募集

本科 生

六拾名

研究科 生

若干名

右募集ス

出願期 日

三月二十五日迄トス

特 典

卒業生ハ東京府ヨリ無試験檢定ニヨリ免許狀ヲ受ク

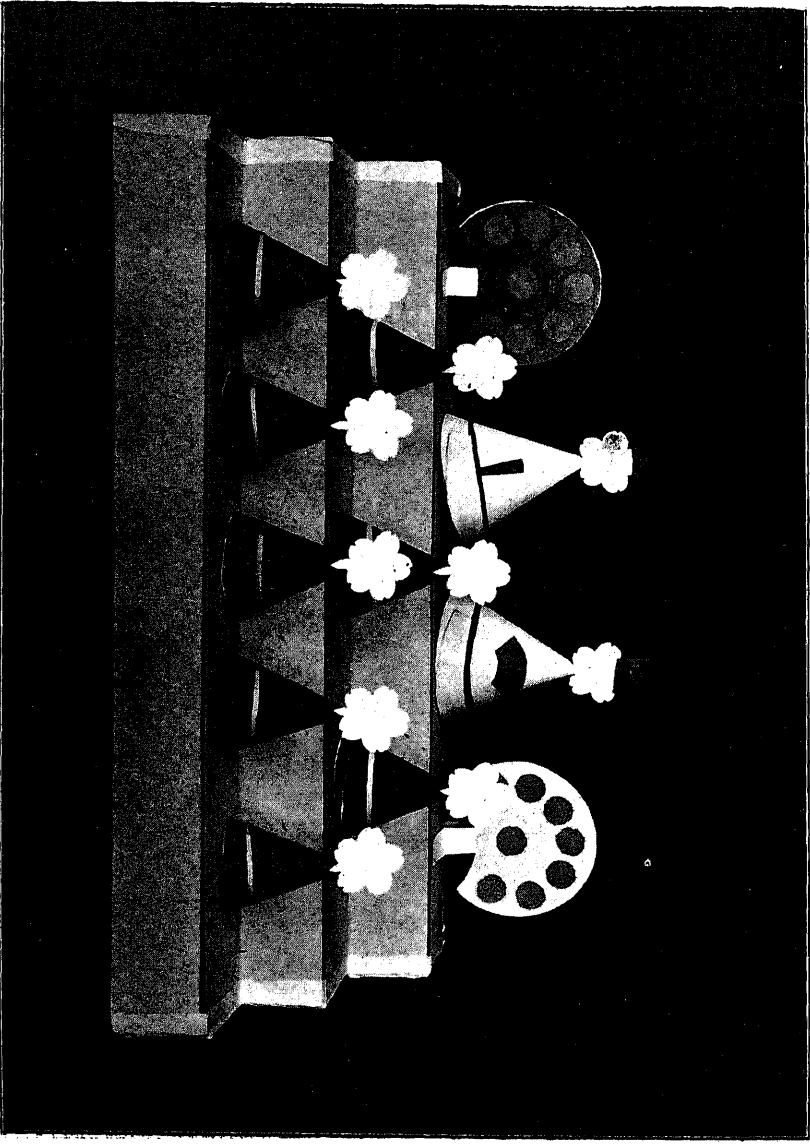
詳細ハ規則ニヨリ二錢切手封入申越サルベシ

東京昭和保姆養成所長 土川 五郎

同願問 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
兼講師

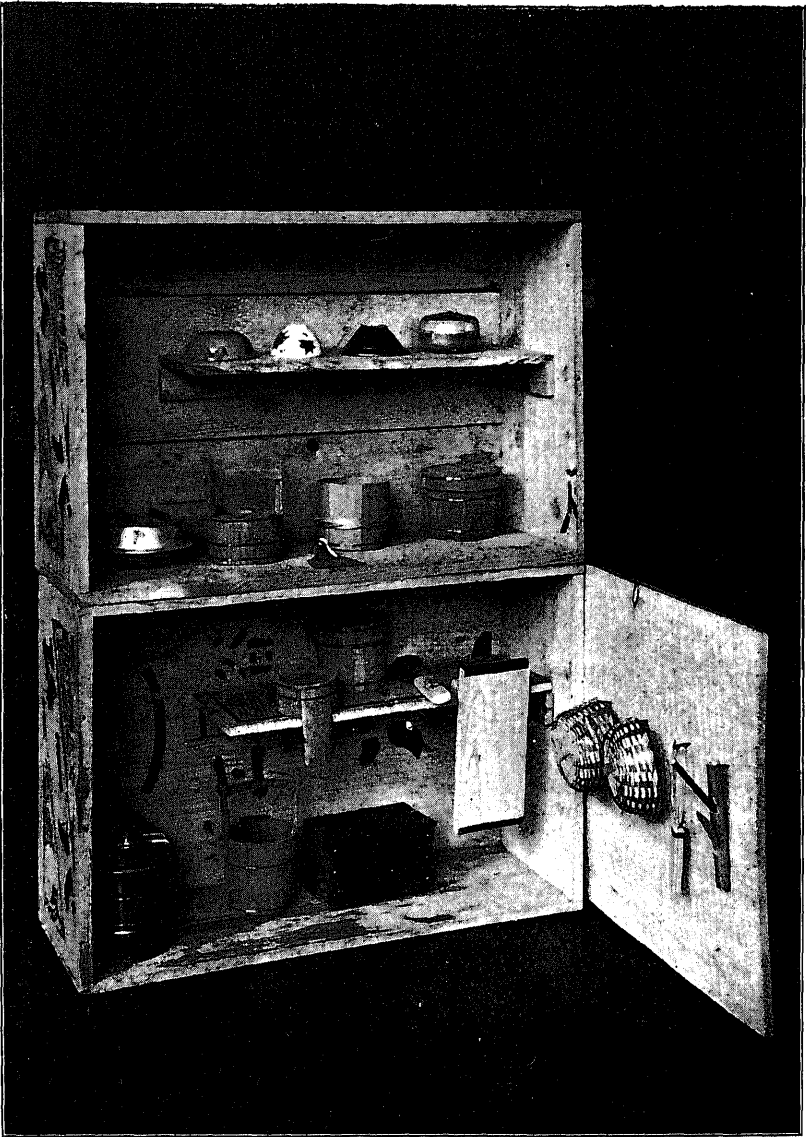
所在地 東京市外大井町原五二〇八

電話 大森二二二一〇番

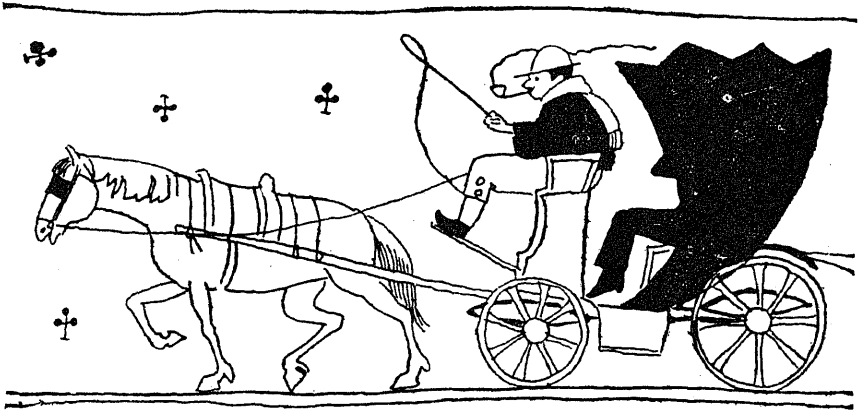


櫻

雛



とごまお



號二第 育教の兒幼 卷十三第

月二年五和昭

一、教育で家庭教育位重要なものではありません。家庭教育の良否は實に人一生を支配し國家の發展を左右するのであります。最近の學術は益々家庭教育の重大なる使命を立證し近時の社會現象は善良なる家庭教育の必要を痛感せしめてゐます。

一、家庭教育の短を補ひ幼兒の心身を充分に發達せしめ將來受くべき學校教育の基礎を築くものは幼稚園保育であります。幼稚園保育の重視すべきことは天下第一人も異議がないのであります。

一、幼兒の教育は本邦唯一の幼稚園保育に關する發表機關であります。而してまた本邦唯一の家庭教育雜誌であります。

一、幼兒の教育は幼兒の教育、即ち家庭に於ける教育と幼稚園に於ける教育、更に小學校初學年教育に關する事項は細大となく網羅し、以て家庭教育の向上を計り、幼稚園保育の進歩發展を期する大抱負をもつて産れたものであります。

保育時間に関する諸問題(二)

堀 七 藏

三

前述の如く東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於ける保育時間は一週二十五時間と規定せられてゐますから、毎日の保育が始まる時刻と保育の終はる時刻は季節によつて變化をいたしますが、一日大體四時間半の保育時間になつてゐます。そして

期 間	登 園	退 園
四月八日より五月三十一日まで	午前九時より	午後一時半まで
六月一日より六月三十日まで	午前八時半より	午後一時まで
七月一日より同十日まで	午前八時半より	午前十一時まで
九月十一日より同廿日まで	同	同
九月廿一日より同十一月三十日まで	午前九時より	午後一時半まで
十二月一日より翌三月二十日まで	午前九時半より	午後二時まで

となつてゐます。それで大多數の幼児はこの規定時刻までに登園し、規定の退園時刻には退園するのであります。しかし入園してゐる幼児が東京市並に市外から通園するのでありますから、幼児は單獨に通園することが出来ません。交通が頻繁であり、車馬の危険がありますから附添人なくては通園するることが出来ない實情であります。幼稚園本來からいへば幼児が危険なく徒歩で通園出来る位の距離でなくてはなりません、大都會の幼稚園には中々困難な事情があります。それで東京女子高等師範學校附屬幼稚園では附添人を以て幼児の送迎をなすことに定めてあります。兄弟が附屬小學校又は女學校に在學してゐる場合には共に通園するものも少くありませんから、事實幼稚園の規定時刻よりも早く登園するものがあり、また規定の時刻よりも早く退園するものもあります。従つて規定の時刻よりも早く幼児の幼稚園生活が始まり、規定よりも長い保育時間になる實情にあります。

四

元來幼稚園は小學校その他の學校の如く、鐘や鈴やまた電鈴時報で保育が始まるべきものではありません。幼児が登園すると共に幼児の幼稚園生活が始まるのでありますし、幼児が退園するまで保育時間があります。

幼児がゐても保育時間でないから幼児の獨り遊びに任せて置き、幼児を放任して置くが如きことは誠に亂暴な話であります。小學校以上で生徒が相當成長發達してゐる場合でも生徒を放任して顧みないこ

とは教育上宜しくないので、毎日當番があつて児童生徒の指導監督をなすべきものであり。實際どこの學校でも看護當番があつて相當な任務を果してゐるのであります。小學校や中等學校などで児童生徒の學校生活の中に教授時間が獨立してその大部分を占めてゐる場合には、休憩時間や自習時間などは相當な指導監督をなすために當番だけを設けて置くことは、蓋し止むを得ざる學校管理上の問題でありませう。しかしそれを幼稚園にも適用することは餘程考量を要するのであります。第一に幼稚園に於て保育時間と休憩時間とを分化させる事が抑も問題であります。保育時間には保母は幼兒の保育をなすが、休憩時間は保母は休憩するので幼兒を自由遊びに放任するといふが如きは、幼稚園保育の根本精神に反するものであります。幼兒の生活は保育時間と休憩時間とに區別すべきものでなく、幼兒が幼稚園にある全時間が保育時間たるべきものであります。若し休憩時間を特設するならば、それは幼兒の休憩時間ではなく保母の休憩時間であります。我が國の幼稚園には休憩時間の特設せられてゐる所がありますが、世界各國どこに行つてもどこの幼稚園でも保育時間と休憩時間との區別を立て、休憩時間に幼兒を放任して保母が休憩しお茶のみなどしてゐるところは一ヶ所もありません。その筈で全幼稚園生活を通して保育が行はれねばならず、十五分でも二十分でも保母が幼兒を放任して置くが如きことは誠に不合理であります。只いろ／＼の事項を教授することだけを保育となすならば幼兒が自由遊をなすのは保育でなく、それは幼兒のしたい放題にさせて置くと差支ないといふ理論が立つかも知れません。しかし眞

の幼児の幼稚園生活全體を通して絶へず行はるべきもので、保育項目によりてのみ保育をなすものでないことを理解すれば、幼児が幼稚園に在る間は常に保母は幼児と共に生活し、その間に適切な指導監督を怠る譯にゆきません。即ち幼児の幼稚園生活には休憩時間がないのでありますから、保母は勝手に休憩時間を設けて幼児を放任するが如きことは、甚だ面白くないと思はれます。幼児が幼稚園にゐる間、四時間も五時間も保母が休憩なしには勤まるものでないといふならば、保母が交替して休憩するのも止むを得ません。また幼児にいろ／＼の自由遊をさせつゝ保母が腰掛けて休むともそれは不都合でありません。要は幼児の幼稚園生活が間斷なく行はれ、その間に危険な行動や不良な行爲が行はれず、幼児の生活が順良に行はれるやうに指導し監督すればよいのであります。全保育時間を通じて保母が幼児と共に飛びまはり、幼児に卒先して活動し、幼児を引まはし常に發動的に幼児の生活を抑制せねばならぬものではありません。幼児の生活を單に指導して消極的に幼児の自由活動を助長すべき時間も、當然含まれてゐるのであります。積極的に保育をなす時間も、消極的に保育をなす時間も勿論あるべきであります。しかし保育作用が全く行はれないが如き休憩時間が毎日あるべき筈のものではありません。保母が休養するが爲めの休憩時間は甚だ面白くないものでありませう。それで東京女子高等師範學校附屬幼稚園では幼児が登園すると直に保育が始まり、幼児が退園するまで間斷なく保育が行はれることを原則とし、保育時間と休憩時間との區別がなく寧ろ全然休憩時間の特設をしてゐないのであります。從

つて保母は保育時間が始まると常に保育室又は遊戯室運動場にゐて、幼児と共に生活しその間に保育を行つてゐるのであります。従つて小學校や女學校などとは全く異つて、幼児の生活に間斷なきが如く保育も間斷なく行はれるのであります。近時小學校に於ても兒童の生活による教育、兒童生活を通しての教育が高潮せられ、自由教育であるとか、個別學習であるとか、また合科教授であるとか、いや教授ではない學習であるとか、作業主義の教育、勤勞主義の教育、體驗尊重の教育などいろいろの主張がありますが、何れも皆兒童の生活を尊重する精神に於て一致する所がありませう。幼稚園こそ眞に幼兒の生活に即し、生活によつて生活を通して、生活さながらの教育が行はるべきものであります。これが小學校では新教育として高潮せられ實行せられつゝあるに、幼稚園では四十人を二人掛の腰掛にて保育室に收容するのが保育時間で、それが四十五分、それから十五分の休憩時間があつて幼兒は勝手に遊び、保母は保母室にてお茶をのみ雑談に花を咲かすといふが如き幼稚園が多いといふことは、正に天下の珍現象、時代逆行といふか、時勢おくれと稱すべきか、明治十六年頃の保育そのまゝが、昭和の現代に於て平氣に行はれてゐるといふべきか何と形容すべきかを知らないものであります。尤も保育時間と休憩時間とを設ける方が保母に便宜であるからと主張するならば、決してそれに反對するものではない。保母のための保育ではない幼兒を保育するのが幼稚園であることを反省し、幼稚園本來の目的を考へる時は休憩時間を設けて幼兒を放任するが如きことは誠に寒心すべき次第でありませう。

幼児の生活に時間割がない如く、幼稚園にも保育時間割はなくとも決して不都合ではありません。既に述べた如く幼稚園は幼児の生活によつて保育するものであり、幼児を楽しく幼児の生活をなさしめるのが保育でありますから、保育項目を教授するのではありません。積極的に保育作用を考へても保育項目にそれ／＼時間配當をせねばならぬ理由を生ぜぬのであります。遊戯は毎日行はねばならぬとか唱歌は一日置きに是非練習せねばならぬとか、折紙を一週に一種教授せねばならぬとか、粘土細工は一週に是非二回はねばならぬとか、それが十五分づゝでなくてはならぬとか、三十分ではいけないとかいふが如き規定は幼稚園令にないことは、誰も御承知でありませうし、また誰もかゝる規定をなすだけの理由もありませんし、主張もいたしません。従来やつてゐたからやるのであると主張しても、それに如何なる論據があり理由があるか。小學校などでは教育全般から通觀して修身は一週二時間とか唱歌は一時間とか、いろ／＼教科配當時數が規定せられてありますから、従つて一週の時間割も出来る譯であります。それでも合科學習と稱して従來の如き時間表を全く設けず學習させることを實行するが如きことも行はれ、またダルトン案やプラトウンプランの如き、或はウイネツカプランと稱するが如き改善案が實施せられてゐるのであります。ダルトン案では教師の方から學習の問題を興へて置き、兒童は自由に研究學習をするもので、従來の如き八ヶましい時間割によつた教授を行はないものであります。また

ラトウインプランは教師も教室も十分の能率を發揮するが爲めに、午前、午後に一回づゝホームルームとスペツシャルルームと大交替をなすのでありますが、ホームルームに於ける學習スペツシャルルーム（特別教室など）に於ける學習は自由で、兒童の欲する所に任せるのであります。このラトウインプランでは比較的八ヶましい交替が行はれるために時間割がありませんから、その本場の米國でも幼稚園には適用してゐません。またウイネツカプランでは算術國語などでは一定の進度程度を豫定し、それを學習するには個別的となし各自の能力に應じた學習をなすやうに仕組み、趣味的の教科は勿論各自の欲するものその能力によつてそれ〴〵學習する方面を異にするといつた教育法であります。何れもそれ〴〵從來の時間割によつて生徒を束縛し、一齊に詰込主義の教授をなすことを改善するが爲の教育法であります。然るに幼兒の生活を一層尊重せねばならぬ幼稚園に於て、舊式の小學校を模して保育時間割を嚴格に定めて之を實行するが如きことは、フレイベルが幼稚園を創始せる當時の精神に、根本的に背反するものであります。

六

米國ニューヨーク市にあるコロンピヤ大學附屬幼稚園では、次のやうな時間表があります。これは我が國の保育時間表とは大に異るところがありませう。

一の組（歳二歳半より四歳までの幼年組）

一、午前八時四十五分より九時四十五分

登園、更靴、作業。この間に幼児が全體出席する譯であります。早く来たものは各自好きな作業をしてゐます。

二、九時四十五分より十時まで

小用をなしランチの用意をいたします。

三、十時より十時半まで ランチ

四、十時半より十時五十分まで

ランチ後の休息をする譯であります。保育室で幼児が休息し保母も保育室で休息せる幼児の看護をするもので、我が國の休憩時間とは大に性質が異なるものであります。

五、十時五十分より十一時二十分まで

音楽

六、十一時二十分より十二時まで

お話、更靴、遊戯（天候の許す限り成るべく戶外で行ふものであります）。そして十二時に歸宅するので毎日三時間の保育であります。

二の組（四歳より五歳）、三の組（五歳より六歳）

一、八時四十五分より十時まで

登園、更靴、作業、

二、十時より十時半まで

會話の集り、唱歌、リズム、

三、十時半より十一時まで

ランチの用意、ランチ、

四、十一時より十一時十分まで

休息、

五、十一時十分より十一時半まで

更靴、皿洗ひ、お話、

六、十一時半より十二時まで

色々の運動、例へばゲーム、戶外遊戯、樂隊、散歩等をなすの

であります。

七、十二時

歸宅

以上は單に一例を示す時間表で、時宜により變更して差支がないといふことになつてゐます。天候の許す限り成るべく戶外遊戯を獎勵することになつてゐます。尙ほコロンビア大學附屬幼稚園と併置せられてゐる小學校低學年の時間表を參考までに掲げませう。尤も日々學課によつて異つてゐるが表はその一例であります。

一、八時四十五分より九時四十五分まで

作業

二、九時四十五分より十時一五分まで

音樂

三、十時十五分より十時半まで

休憩

四、十時半より十一時まで

ランチ、休息

五、十一時より十一時半まで

授業——読み方

六、十一時半より十一時五十分まで

體操

七、十一時五十分より十二時半まで

授業、讀方、お話、ドラマ、又は遠足

八、十二時半

歸宅

これが幼稚園と連絡せる小學校低學年の時間表の一例であります。かく進歩せる幼稚園や小學校では我が國の所謂時間表とは大に趣を異にしたものを採用してゐることを注意せねばなりません。單に時間表だけは國情が異なりますから必ずしも模倣する必要がありませんが保育の精神は大に參考とせねばなりません。幼兒の生活を尊重し、幼兒の生活によつてその心身を健全に發達せしめ善良なる性情を涵養する眞の保育には授業時間表は全く必要がないことを眞に理解せねばなりません。

七

しかし實際一つの幼稚園に保育の組が幾つもある場合にはいろいろの必要から大體時間表の如き豫定を定めて置く必要がありませう。遊戯室が衝突したり、ピアノやオルガンの引張り合となつたり、運動用具が不足で喧嘩になつたりするが如き現象は實際に起り得ることでありませう、また粘土細工の如きは全體の組が一齊の時間に行はれる方の便宜であるといふ幼稚園もありませうし、また粘土の準備上三

組も四組も一時では大變に困るといふ場合も多いことでありませう。更に活動寫眞をやるとか、人形芝居をなすとか商遊をなすとかいろいろの行事をなす場合に一組だけの便宜なものもあり、他の組の参加を必要とせず作業もありますから實際に於ては大體の豫定表を必要とするのであります。毎日全くの豫定なくして幼児の生活に全然任せて各自の自由に遊ばせるだけの力量があり、その間に各幼児に適切な保育をなすことが出来るならば、この上もありません。しかし、只行當りばつたりでは實際に困ることが多いのでありませう。それで各組にそれ／＼大體の時間豫定表を作製し置き、幼稚園全體として十分の管理が行はれ、しかも各組に適切なる保育、更に各幼児の個性に順應して適切なる取扱をなすことが肝要であります。



七八歳の頃

デュキー原著

(幼稚園から低學年へ)

大塚喜一譯

此譯文を草するに當り、倉橋先生から御懇篤なる御教示を賜つた所が少くない。茲に謹で謝意をする。

學校組織の一般的計畫に於て、兒童發達の三つの相に對應して仕事の三つの時期が注目せらるゝを常とする。其第一は、子供が彼の心を占有せる映像及び情緒の基礎の上に、直接的にして發動的なる活動に身を任せる時期である。そこには一方に常に身體的運動があり、他方に物語・劇・映像、即ち精神的全體なるものがある。しかも此兩者は互に分離せるものではない。兒童の意識に立入つて見れば、行動は觀念の實現を意味せずして、只自發的な湧出と發現とである。兒童の思想は、實現さるべき何物かではなく、又目的として未來に向つて投影せられても居ず、實に彼が爲す所の事その事に於て滿喫する處の、活意義と活價値とを有するものである。それ故にこそ此時期は遊戲の時期と稱せられる。其生活の全體の方向が心像の現出へと向けられて居り、斯くして其心像に潑瀨が與へられ人生に於ける一個の位置が

與へられる。

吾人が章を追ふて論じ來れる教育の四箇年間（四歳より八歳まで）の仕事は、子供の態度が顯著に此種のものである事の實際原理に基礎づけられてゐる。換言すれば、存在の爲に存在せる觀念から、心理的に手段と目的との分離せる事を本質とせる仕事、即ち要素とか階程とか行動とかの分離を本質とせる仕事を強制するは尙早なりといふ原理に基礎を置いてゐる。それ故六七歳の頃には讀書算には比較的少き且偶發的な注意が爲さるゝのみである。而して地理や科學に入門せんとする企は、分析的な形態學的な方法よりも寧ろ総合的な生活的な方法が採用される。此事は、是等のものが「困難」であつて、子供は面白がらせねばならぬからではなく、又文明に於ける、及個人的發達に於ける形式と象徴との重要性が評價されてゐないからでもない。そは只子供の心的態度が此時期には、斯の如き仕事に必要な程に特殊化してゐない事、且斯の如き仕事は行爲と觀念との分離を來して行爲を便宜的機械的ならしめ、觀念を遠大にして理解すべからざるに至らしむるからである。

しかし勿論、手段と目的とを意識的に關係せしむる事が此時期には全く缺けて居るとも、又後時期の發達を豫想する必要が無いとも思はれない。之に反し、六歳の幼兒の意識にも幾分か縁遠き目的の或種ものが曙光を發し、其結果子供は目的に到達する爲に彼の行動を統制する事に興味を覺ゆるものである。

此態度の變化は、其結果が觸知し得られ且實際的のものゝ方、智的で抽象的なるものよりも一層容易に從て早く來る。例へば、子供が何かに用ひんが爲に箱を作る場合、又はランチに食せんが爲に穀物を料理する場合の方、或る將來の使用の爲めに讀み算へ等するよりも遙に自然的に此事が行はれる。六七歳の幼兒の活動的構成的作業（前二章參照）はそれ故に、勢力の外的發動として子供に直接に現はるゝ所のものを秩序の方途に指導して掲げられたる結果に到らしむる活動を含む。此事は斯くして、目的に向つて働き、階梯の順序に從て彼方の何者かを達成する様に現在の作業を統制する所の習慣を形成する。是等の習慣は、更に意識的に考へられたる且遠き目的へと漸次に轉移せらるゝであらう。

八歳頃は丁度斯かる轉移の一が著しく見える。平均九歳に於ては、爲さるべき手段が不適當であると感ぜらるゝ結果に到達せんと企つる事を明かに好まない。子供は例へば前には喜を以て爲したる描畫の種類に反對する、それは彼が之を結果として見る故に未熟であり且不合理とさへ感じて、彼自身の現在の生活の一部分として感じなくなる。十歳に至れば、「何か困難なる事」即ち手段より目的への選擇と適應との中に力や効力を試し且呼起す如き何物かを屢々意識的に要求する。

それ故に此時期は、廣く云へば熟練即ち或種の「技術」の獲得の期である。勿論此種の技術は、描畫や音楽や讀書に於けると同様に地理や歴史にも適用せられる。其心理學的實體は達成せらるべき目的の精神的現存である。そは要求せらるゝ手段（要素・形式・象徴）を選擇し分析し而して結果を得る爲に此

手段を用ふるに當つて規則的なる秩序・方法・規則」に従ふ事を必要ならしむる所のものである。

然れども、特別なる方向に於ける容易と熟練とを得る所の技術の時期として此期を承認するに當つては、我々は或る根本原理に留意せねばならぬ。第一に、既に述べたる如く、成長は徐々である。子供は書く前に読み、數は其後に、且科學より前に總ての是等の題目が来る。此時期迄の基本教育に於ける科學の比較的僅かな成功は、其嚴密に智的なる方面の尙早なる強調であらうとは疑問とせらるべきである。吾人の經驗によれば、八九歳の子供は科學の實驗的仕事に興味を有するが、それは彼等が先づ或る問題又は觀念を考へてゐて此實驗と問題を解き又は學理を試す方法と見做してゐるからではない。反之、斯かる興味は十三四歳に至つて漸く現はるゝものである。彼等は構成的仕事や料理を爲せると同様に實驗を取扱ひ、其各段階又は順序に於て「何が起るか」を見聞する事が彼等の心を占領してゐる。又、歴史や文學に於ける専門的興味は後年に來るので、是等のものに於ては、想像され感受されたる全體に於ける興味即物語の形（十月號二七頁参照）は最も永く持續され且客觀的分析に抵抗するものである。

第二に、技術に於ける又は熟練を獲得する際の興味は、發達を阻止妨害せざらしめんが爲めには、實際的經驗の充分なる素地を要する。たとひ六七歳の子供が分析に對し形式や象徴や規則等への注意に對して心理的に用意しかけてはゐるが、彼等の中にて後者（規則）を用ひて前者（形式又は象徴）に全く餘念なく没頭する事が有利である程に生命的經驗の範圍を有する者は極めて稀である。故に、再言すれ

ば、注意は依然として如實の主題に向けられてそれにより子供の想像と思想との世界を廣め且深むる様ならしむべきであり、彼等の未だ得ざる經驗を分析し又は彼等に何等人格的影響無き事物を爲すための規則を學ぶ等に注意を向くべきではない。

而して第三に、技術への入門は子供自身の經驗内に起る目的に關連して來らねばならぬ、即ち欲求されたる目的として、且それ故に努力への動機として子供に現はれる目的に關連して來らねばならぬ。餘りに屢々假想される事は、教師にとりては目的を見るのみにて充分であり、而して勿論子供は今や或力を必要とする様になるのだから彼をして此力を得しむるには、此事が充分なる基礎であると考へらるゝ事である。しかしながら、最初の心理的要件は、子供は目的を彼自身の目的として又心を彼自身の必要として見且感じてゐる事、及斯くして内からの動機即固有の衝動的動機を有し、それに依て分析を爲し「規則」即ち遂行の方法を獲得する事である。此事は仕事が形式的に活動的・構成・的發表的仕事と關連する事に依て、初めて可能となる。其仕事たるや困難を表はし是等を寫し出す有効なる方法を獲得する必要を暗示する所のものである。これは「相關」が此時期に於て發現する形式である。

教育者の目標が此時期に於て、子供をして或る力又は熟練を獲得せしむる事にあるとしても、以上の三原則に依て次の諸點が考慮されねばならぬ。即ち

(一) 急激の移動は行はれるものでない。

(二) 問題感と抵抗感の發生及びそれを解かんとする働機の發生に機會を提供せんが爲に、子供は尙やはり如實の主題に専心し、且直接的表現的で構成的なる話活動に従事する。

(三) 技術的練習は斯の如き材料から撰擇せられる。

尙其上に、周圍が完全であるが爲には

(四) 附加的な具體的材料又は作業は、子供が、彼の新しく獲得せる力を用ひ斯くして其價值を實現する所の結果の上に又は過程の中に提供せられる。

黒土や草履のうらも梅の花

一

茶

醫師の立場より見たる幼稚園と急性傳染病

(承前)

醫學博士 島

信

一、「インフルエンザ」及流行性寒胃

「インフルエンザ」はインフルエンザ桿菌で起る病氣である。然るに「インフルエンザ菌」の發見以後、殆ど同様の症狀を起す疾患で殊に冬期流行性に起り然かも「インフルエンザ菌」の認められず尙且つ特殊の病原菌が未だ發見されないものを流行性感胃と言て居るのである。大正七八年に大流行したのも此れで殆ど全世界を風靡したので世界「カゼ」とも言はれ又スペインから流行が始まつたので「スペインカゼ」とも言はれたものである。

何れの場合でも其の傳染は咳嗽、嘔嚏、談話等に際し直接人から人に起るものである。玩具手巾等を介して間接に傳染することもあるが非常に稀である。

潜伏期は一日乃至一週間で、多くは病人に接して二三日で起る。一兩日の間惡寒、倦怠、食慾不振、頭痛、鼻加答兒等の前驅症狀があつて、次で三十九度以上の高熱を發し嘔吐、頸痛、頭痛、腓腸筋痛、腰痛等を起して來る。然し幼児では僅かの症狀は苦にせず、又他人にもわからず、突然高熱を發し倦怠

の爲め轉々反則する様なことがある。大體次の三型に區別することが出来る。

一、胃腸型。食慾不振・嘔吐・腹痛・下痢を主徴とするもの。

二、呼吸器型。咳嗽・氣管支炎等の症狀著明なもの。

三、神經型。頭痛・筋痛・不安・不眠時には譫語・昏睡・痙攣等腦症狀の著明なもの。

主要な合併症は肺炎・敗血症・化膿性中耳炎・腦炎等で此の爲めに不幸の轉機を取るものである。

豫防法。最も注意すべきは患者に接近しない事が第一で、冬期は可成的人込の所へ行かぬ様にし、多數衆合の場所電車内等に於ては「マスク」をかけて居ることが必要である。病原菌浸入所である口腔咽喉を強くして置くことが、又豫防上重要なことで此れには秋口から一日數回含嗽をする様習慣付けることを忘れてはならない。家人或は殊に小兒の世話をする人が感冒に罹つて居る時は、其輕重に不拘、少くとも小兒に接近する時は「マスク」を懸けて口から飛沫を飛ばさぬ様に注意することが必要である。小兒の感冒は多くは家庭に於て大人の輕いものから傳染するものである。

二、百日咳

此れは小兒を非常に苦しめる病氣で醫者も其治療には非常に困る病氣である。急性傳染病は一般に六ヶ月未滿の乳兒は懼り惡いものであるが百日咳と、流行感冒とは例外で懼り易く、且つ懼ると又年少なもの程重いので、甚だ油斷のならないものである。年齢から言ふと一年乃至六年の小兒が多く懼り、十

歳以後は稀であり一度罹患すると二度とは罹らぬものである。主に秋及春に多い病氣である。

本病は百日咳菌で起るもので、患者の咳嗽噴嚏等によつて吹散される飛沫によつて直接感染するもので間接の傳染は非常に稀である。大人が百日咳に感染し軽い咳をして居て小兒に其大人を介して傳染されることは勿論である。

感染してからの潜伏期は、一週間位で發病の經過を加答兒期、癒咳期、恢復期の三期に區別することが出来る。傳染は初期に於て最も強いから出来るだけ早く患者を他の小兒と隔離することが豫防上必要である。

一、加答兒期。此の期の持續は通常一二週間で、普通の上氣道加答兒の症狀で咳嗽噴嚏が主である。發熱を伴はないことが感冒と異て居り咳は殊に夜間睡眠時に多く、然かも出だすと續けて出るのが特徴で顔を赤くして咳込むことが多い。一般に普通の鎮咳劑では納まらず却て段々強くなることが多い。此期に診斷を確定することは餘程熟練した醫師でないとい困難であり、血液の検査をして始めて斷定出来る様なこともある。

二、癒咳期。此期になれば素人でも診斷がつく程特有な咳嗽發作が起るのである、發作の前患兒は不安違和を自覺して寢て居たものが起上り、或は遊んで居たものが母親等に飛付く様なことがある。發作の有様は強い短呼氣が迅速に相踵き吸氣をする暇がなく、顔面は初めは潮紅し次で「チアノーゼ」と稱し

暗紫色になり口唇も「チアノーゼ」を呈し、舌は上下の齒列の間に出て所謂瘧咳となり其苦悶の状態は傍觀するに忍びない程強いことがあり、幼弱乳兒は此の發作の爲め窒息死を起すことがある程である。如此短呼氣連發後は吹笛様深吸氣を營み狹隘な聲門を通じて空氣を吸入する。所謂息を「引く」のである。此の發作が數回反復した後粘稠な硝子様粘液を咳出して發作を終る。乳兒では短呼氣連發後の深吸氣を缺く事が多い、即ち咳を引かなくても百日咳であることがある。此の發作は殊に睡眠中に自然に起ることが多いが、啼泣驚愕等が誘因となることが多い。發作は通常二分乃至五分間持續し、一晝夜の發作回數は輕重によつて異り輕きは五六回重きは五十回にも及ぶことがある。

瘧咳中或は後に嘔吐することが屢々あり、瘧咳頻發する爲め安靜時に於ても顔面は浮腫狀となり、眼瞼腫大し眼球結膜は潮紅し一目見て百日咳患兒であることが想像されることが屢々ある。此の期の持續は通常三週間位であるが長いものは六週間も續くことがある。一度百日咳を病んだ小兒は其後、一二年間は一寸した感冒に罹つても此の發作と同じ瘧咳を起すことが屢々ある。然し此の場合は百日咳ではないのである。

三、恢復期。瘧咳發作の強度は前期と大差なきも回数少くなるか、或は發作が樂になり喀痰が容易になり一二週間の經過で全快する。

合併症として最も恐ろしいのは肺炎で、殊に乳兒幼兒では危險で百日咳肺炎の過半は死亡する程死亡

率の多いものである。其他瘧咳の爲めに起る合併症として脱腸、鼻、口、耳、眼球等に出血を屢々見る時には腦溢血を起すこともある。尙本病と重要な關係のあるのは結核で、潜伏性結核を働性に導き、或は本病の爲めに非常に抵抗力が減退し結核に感染し易くなり爲めに、百日咳の經過中或は經過後に屢々重症結核を起すことがある。

豫後は體質年齢に關係し虛弱なもの、幼若なもの程死亡率は多く乳幼兒は瘧咳の爲め窒息死を起すことが屢々あるが、其他は主に合併症の爲めに死亡するものである。従て百日咳に罹つたら感冒を豫防することが最も大切である。百日咳は醫療でも治らないし放置しても百日も経てば治るものと油斷するのは非常に危険で、一日も早く全治せしむべく醫療を受けなければならず、氣管支炎が併發したらば最も警戒を要し肺炎になる危険あるものとして入院治療し萬全を期さなければならぬ。

豫防法、患兒を出来るだけ早く隔離することである。百日咳は始めの内は専門の醫師でさへ確診をすることが困難であり然かも初期に於て、其の傳染性は強いのであるから、幼稚園等に於ては咳の出る兒は先づ當分休ませ百日咳でない事が確かになつて登園させる様、當局及家庭に於て注意し度いものである。百日咳の診斷がついたら勿論休園させ傳染の恐なき事が確になる迄休ませなければならぬ。百日咳だけが合併症のない時は咳だけで全身症状は少しもないので少し長くなると、幼稚園や小學校に早く通はせ度がるのが一般の家庭に起る問題であるが、其兒には差支なくとも、此れに感染した他の兒乃至は其

家庭の弟妹に傳染させ、悲劇の起る恐れがあるから充分注意が必要である。豫防注射は有効な事も屢々あるが、絶對のものでなく従て種痘をする様に流行時にも勵行することは出来ないし今の所不必要である。只家庭に百日咳患兒の發生した場合、他の小兒殊に幼弱なものに豫防注射を行ふ程度のものである。従て豫防の要點は患者に接せぬこと、常に咽喉の鍛練と清潔を保つ爲め平常硼酸水或は單に水で一日數回咳嗽することである。

三、チフテリア

此れはチフテリア菌が局所に付て繁殖し義膜を作り、毒素を産出して一般中毒症を起す疾患で、二歳乃至六歳の小兒が一番罹る。やはり冬期に多い急性傳染病である。一度本病に罹れば免疫性は得られるが、百日咳麻疹等と異り數回罹咳することがある。

傳染経路は人から人に直接傳染するもので、やはり飛沫傳染で咳嗽、噴嚏談話等で黴菌を吹掛けられて感染するものである。チフテリア菌は患者は素より健康な患の咽喉や鼻腔の粘膜にも棲息して居ることがあるので、都會の様な人の交通集會の多い所では、何時何處で感染するか知れない非常に危険なものである。

潜伏期は二日乃至四日で、初發症状は頗る多様で、菌占居の部位、毒性個人素質、混合傳染の有無によつて異なるが、皮膚の蒼白食慾不振發熱の一般症状で發病するものである。其症状は菌占居の部位によ

つて異り咽頭デフテリア、喉頭デフテリア、鼻腔デフテリア、結膜デフテリア、皮膚デフテリア、陰門デフテリアの六型に區別される。主なものは初めの三者であるから茲には此三者に止める。

咽頭チフテリア、通常熱が出て咽頭が痛くなる熱は三十八度臺の事が多く高熱は稀であるが、時には三十九度以上に上ることもあり、又熱が低く三十七度臺のこともある。併し一般に熱の割合に元氣がなく脈が速く顔色が蒼白い。食欲缺損し屢々發病と同時に嘔吐することがある。咽頭を見ると粘膜は一般に發赤し扁桃腺腫脹し一側或は兩側の扁桃腺上に灰血色の青味を帯びた義膜が認められる。此れは小斑又は綿狀で微菌の検査をしなければ診斷出來ない様な事もあるが、稍々進めば義膜は扁桃腺に扁平に擴がつて居り、更に重症になれば口蓋、懸壅垂及咽頭後壁に蔓延して居るのが認められる。同時に顎下淋巴腺が腫脹し壓通がある。咽頭の検査は少し練習すれば素人でも出來るから時々小兒の咽頭を診る様にして置く事が必要である。

重症チフテリア。即中毒型では一般狀態著しく侵され體温は四十度前後、脈搏頻軟、蒼白無慾狀となり心臓衰弱甚しく數時間後に死亡する。

喉頭チフテリア。此れは咽頭デフテリアが進んで一段奥に浸入して起ることが多く、或は又初めから喉頭に菌が占居して咽頭には何等の變化のないこともある。此の場合の特徴は聲の喑れること、犬の吠える様な強い響のある咳をすることである。此れは聲帯が腫れる爲めて時には全く無聲になることがあ

る。喉頭が腫れ義膜が出来る爲めに呼吸が苦しくなる。更に強くなると呼吸困難の爲めに顔色は蒼白で頰部口唇指趾が暗紫色になり、遂には心臓麻痺で斃れる。

鼻腔チフテリア。此れは乳兒幼児に多いもので微菌が鼻の粘膜に繁殖し起るもので、此の際の特徴は黄赤な鼻汁が出て然かも其中に血の混つて居ることが認められることである。乳幼児で膿血の鼻汁が出て居たら先づ此のチフテリアを疑はなければならぬ。一般に鼻腔チフテリアは一般症状が少いので、小兒は少くとも初期には平氣で遊んで居ることが多いから注意を要する。

チフテリア後麻痺。此れはチフテリアの経過中、或は経過後に諸所の神経の麻痺を起すもので、治療が遅れたか或は治療血清の注射分量が少かつたりした時に起るものである。最も多く來るのは口蓋帆麻痺で言語が鼻性を帯び流動物の嚥下困難になり、鼻腔内に逆流する様になる。重症では他の咽頭筋も麻痺して嚥下不能となる。其他眼筋麻痺して眼球の働が悪くなり、斜視、復視等が起る、又下肢の外全麻痺が起り歩行困難の起ることがある。

豫後は血清注射を早期に行つたか否かに關係するものであるから、早く診断を得て治療を早くすることが最も必要で、咽頭痛があつたり扁桃腺に白いものが見えたり、膿血性鼻汁が出居る様な場合には早く醫師の診断を受けなければならぬ。

豫防 患者の隔離は勿論の事で成べく人の混雜する様な所へは小兒を連れて行かない事が必要である。

一番多いのは咽頭デフテリアであるから咽喉の衛生に注意することが大切である。家族に患者が出たらば幼児には豫防血清注射をする。現今殊に米國ではデフテリアの豫防注射を危険児には行つて居る。即ち微量の毒素を皮膚に注射して反應の起る兒はデフテリアに對する免疫が不充分で罹病する危険があるので「デフテリア」の毒素と抗毒素との混合物で免疫するのである。我國では一般的には未だ此法は行はれて居ない。(未完)

おまゝ、ごと箱 (口繪参照)

あき箱のお家から思ひついたサイダーの空箱のお臺所は案外好評を博して毎日の様にお部屋の中やお庭へ運ばれて御用にたつております。

サイダーの一ダース入りの空箱を二つ重ねて重ねた部分へ釘を澤山にうちつけて上下がはなれり様にしつかり止めてあります。

蓋の一枚は適當の大きさに切つて上下二箱ともに棚にしてつけました。一枚の方は下の箱の袖の様に釘で直角にうちつけそしてこれに釘を數本うつてざるをかけおしやもぢをかけ大根おろしをかけております。

棚の上にはお皿やどんぶりなどをのせて下の方にはお釜、米櫃などをおいております。

おもちやは箱入の上等のでなしで一袋五十錢から一圓位の袋入のものを買つて臺所のあちこちに分けておきます。ざるかけやお皿をのせるところなどちやんときめておまゝごとがすんだあとは必らず所定 ところへおしまひにする事にしておりますから小さいおもちやも割合になくならないで使つております。

ストーブを圍んで

— 遊戯についてののはなし —

例月の保育座談會を改題しました。

時 日 一月二十一日午後三時から

場 所 東京女子高等師範學校附屬幼稚園

出席者 倉橋教授、堀主事、及川、新庄、菊池、神原、白根、坂口の各保母

神原 今日は遊戯を話題に願ひます。

及川 外國の幼稚園では遊戯はどんなのでせう。

堀 簡單なものですよ、遊戯が〇〇さんの云はれ

るようなものなら大變です。子供は遊戯をして

見せる事を喜ぶのだから遊戯は見せるためにや

ると云ふのですからね。子供の程度に合ふまい

が大人に見せるためにやる。

倉橋 其の考へは一掃しなくちやんならん。我々で

は思ひもよらぬ事だが事實はなかく多い。と

ところで、その「見せたい」氣持といふことを論

者の爲に一番よく解釋すれば、子供の心の中に

ある誇示の本能といふことになるのだらうが：

…。

堀 それはある。

倉橋 しかしそれを無批判に、不用意に、役者が見

物に見てもらつて拍手喝采に嬉しがるのと一緒

にするのは何としても間違だ。

堀 子供だつて大人が横で見て居てバチ／＼拍手

されて悪い氣はしないけれどね。

倉橋 本能としてそれがあるからね。

堀 大人に見せるためのやり方は子供の活動本能を満足させるには無頓着。

倉橋 假りに考へを進める順序として、見せるためにやるといふ言葉で成り立ち得る正しそうな意味をつきつめて見る行き方にしますか。

一同 (ちあ………)

堀 或は話の順序としては所謂目的をあげてそれから正式に批判して行くか。

倉橋 私は、一體遊戯は、して居るのを横から見ても、見てやらないの性質のものではないと思ふ。言ふ迄もなく、子供のための遊戯であるから、子供の心理に誇示本能があるとしても、それを満足させるために遊戯をするといふのは立論が誤だ。藤村だかの書いたものの中に、子供が芝居の眞似をして居る所に通りかゝつて立止ま

つて見て居たら、更に一層乘氣になつて、いろ

／＼と演じたといふ事が書いてあつた。即ち子供の心に見せたい氣のあるのは事實だが、初めからその氣を満足させる爲に遊戯をさせるとか、況や大人流な誇張を付け加へてまで行つたりするのは、大變な誤謬だ。

堀 そして正しい遊戯を惡用することになる。

倉橋 結果としてもさうなるね。子供自身からいっても、子どもとしての淡泊を踏み越すと自分の生活を害ふ。但しね。先生は子ども等自身のために、をどれといつて戸を閉めて、するがい、といふのじやない。たゞ見られては居るが、そしてそこにひとつの淡泊な満足はあるが、それ以上にならないようにしなければならんと思ふね。

堀 アメリカあたりの子供の演劇は、學習の結果を出すので、父兄に入場券をとつてやる。此の

場合は作業そのものなり、入場料を取る事なりを實習させてゐるので、單純に見せる事を要求してやつてゐるのと程度が違ふ。

倉橋 思ひ出すが、今から十年近く前になるかしら、學校や幼稚園で子どもの演戲の公演が流行した時、僕は黙してゐるに絶えず、一人で反對した事があつた。その時多くの新聞などが、各方面の意見を集めて掲載したりしたが、反對論は僕一人でした。

堀 商賣的に仕舞をやつてみせるなどは、日本だけですよ。あれはをどりをやるよりも上手下手を見て貰ふて喝采を博する、見せるのが本體だ舞から來てゐる遊戯は多く見せるのを本體としてゐる。

倉橋 そういふのは論外としても、そして、子どもの誇示本能といふところに重點を置いて考へるとしても、教育は、それを如何に處置したがい

いか、その本能を満足させながらも、何方へ向けて行くべきかといふ事が大事の問題だ。若し誇示本能をそのまゝ、助長させるようなことをしたら大問題だ。そこで僕は斯う考へますね。自己本位の誇示欲から相手本位のエンターテインメントの方へ導くべきだとね。人間の教養としてエンターテインメントは大切だと思ふね。自分が黙つて何もしないでゐちや座が白けるから、周圍の人を愉快にするために歌ひもし、踊りもして見せるといふ心です。

堀 自分の持つ働さで人がよろこべばこれ程いい事はない。日本の隠し藝とは違ふね。

倉橋 日本の武士が宴會の時など、一つおさかなといつて、舞つたりしたのもそれだ。

(此時白根、坂口兩氏出席當番としてお茶菓子の用意の爲に遅れた故一同特に歓迎)

倉橋 つまり見せるといふ事をはなれて、時にはあ

お客様をよろこばせてあげる。

堀 子供の遊戯を見せてくれといふのに断らなくともよい。

倉橋 気の毒な養老院などに行つて「エンターテイメント」でよろこばせてあげる。慈善を離れて「エンターテイメント」で、するのはいゝね。

誇示本能一點張りのと、はつきり區分出来るものです。假りに子供が誇示本能でやつても私を「エンターテイメント」してくれたと解釋して喜んで呉れる祖母さんや姉さんのやうな人の前でやるのも、其の一つの場合だね。

堀 世間のちさらへ會は、こんな出来るようになつたとそれを見せる。

倉橋 これは面白い話になる。子供の親がよろこぶからといふよりは師匠があさらへ會によつて、新しい弟子入りをとるためだといふようにな下卑た話は除いてもね。私の仕込みでこんなにま

で、したのを見て下さいといふ氣がある。それは子供の生活の純粹性から見れば飛んだ横道

堀 そんな風な遊戯が多い。

新庄 そんな幼稚園が多いかしら。

倉橋 尠くも、一時は非常なものでした。學校へ視學様がいらつしやる。この際大いにやつて居る所をお見せしてそれで出世しようなんてのは別として——あり得る事ですがね、——不斷より一段と聲はりあげたり、遊戯をさせて御覽に入れたりする。親達にしても、遊戯の分らぬ人が多いので、子どもよりも大人自身の誇示本能が手傳ふものだから大變な事になる。非常な害があつたのですよ。その間、子供は無意識で居て呉れ、ばい、んだが、幼児ながらも自己意識が出て來るので、妙な神經質が出るんだね。その上、何時の會でも、うまい子を出すものだから

ら、さうなると誇示本能が「エンターティメント」どころか、鼻もちもならない見せ心になるものだ。

堀 その時子供が無關心で踊つてゐるなら大人の材料になつてゐるのさ。

倉橋 輕業さして金をとつてゐるのと同じもの。まあ、この頃は、たんとはない。さすがに。

新庄 餘り聞きませぬね。

堀 幼稚園では少いでせう。機會が少いし、やるのに困難だから、ところが小學校ではね。……殊にラヂオに出るのが流行り出してから大變なものだ。あゝなると虚榮の問題になる。

倉橋 當人が發達してゐない事を考へりや、少くも危険な事をさせるのは間違ひだ。

堀 あれじゃ、大人のために子供は犠牲になつてゐる。

倉橋 一九三〇年に於てなほ且、そういふものがあ

りとすれば、幼稚園界から一掃しなけりやならん……と大見榮を切つて置かう。

○

堀 こゝらで方向を轉換して一體、遊戯の教育價値は何なの。

新庄 分らないんですよ。此方が伺ひたい所ですわ。堀 何ういふ積りでやつてゐるんだね。

一同 ……………

倉橋 まあ、保育學入門に書いてある工合にいへばね、つまり、踊りたい氣持を満足させるためだ

堀 踊る事によつて心を満足させると同時に身體發達を促すといふ點もある。

倉橋 嫌ひな子供はありますか。

新庄 ありますわ。はじめは入りそびれたのですが、先生や、女の子の眞似してやるのが馬鹿々々しいつていふ氣持が見えますの。かなり強い所を

持つてゐる男の兒です。

及川 私の組にも、男の子にはちよい／＼ありますね。

新庄 その子供、唱歌の時は歌ひます。

及川 幼稚園でなくて、家ではする子供がありません。

堀 外ではよく遊びまはつてゐる子供が、遊戯はいやだつていふ事がある。三四年前或る幼兒が遊戯をしないで、僕の所へ「先生遊ばう」と引張りに來た。

菊池 あの子供は、小さい組の時は致して居りました。だが、小學校に行く前になつて、馬鹿らしいからつてやりませんでした。

及川 小さい組の時にしない人が多い様ですね。

堀 何うしても遊戯をさせなくちやならぬか。

新庄 そこ／＼そこちらが伺ひたいところですよ。他の事はよく出来る子供ですから遊戯は出来なく

てもまあ良いと責めないで居りますが……

堀 僕はそれでい／＼と思つてゐる。

新庄 だけど、かなり、我儘な子です。

倉橋 遊戯の價値は澤山あるけれど、懷疑的の見方をすれば、こつちで定めた動作の型に入れてゆくのだから、順應性の子供は外から型付けられるとほりにラク／＼順應出来るが、自己の強いものを持つてゐる子供にはそれが馬鹿らしい事もあらう。

堀 遊戯をやらせる事は悪くないが、やる遊戯が適當しないといふこともあらう。尤も、子供が明かに我が儘をいふ場合は、我が儘を過させない爲に、いやでもさせる時もあらう。訓練上から考へた場合だね。

新庄 その子供は、かなり我が儘ですよ。

堀 人には傾向がある。貴女方が百人一首の嫌ひな、そしてとれない私に百人一首をやらせよう

としてゐると同じもんで。

新庄 近頃 リトミックの話もあるし、遊戯は何うすれば一番いゝものでせうか。

倉橋 理論的には凡べて、子供の生活からとつて、料理し調理し、て與へてゐる譯のものだが、凡べての子供にピツタリあふ遊戯ばかりはないかもしれない。そこがむづかしいものだ。唱歌なんかでも、自分の氣持と無關係なものを歌はせられたり、自分の氣持に觸れて來ぬ遊戯をさせられたりするものは、つらいだらう。

新庄 大きい組になれば、もう習慣になつてゐるので、遊戯といへば一緒に集まつて待つて居りませうけれども、そうなる前、小さい組の時に、何うしたらいゝのですう。

倉橋 理論的にいへば、みんなと同じ手振に遊んでゐるグループブレイには調和的愉快が見出される筈だが、そのグループブレイに愉快がないと

すれば、その子の心に調和的なものが缺けてゐるかの疑ひも持てる。

堀 共同生活で、人がやれば自分もやりたくなる筈なんだが、「話」を聞く場合には、みんなと一緒に聞いてゐないにしても靜かにさへしてゐればいゝのだが、この方は體を動かさなくちやならんから分つてしまふ。

○

倉橋 横からホグスト、斯ういふこともいへる。幼稚園の保育事項は、どれもこれも同質的に配當してやつてゐるが、——やり方は課すではないが——實はその中に區別のあるものじやあるまいかね。製作は大體に於て皆がする方針でいつていゝもの。遊んでゐる間に子供は製作的要求があるんだから、いつでも製作させようといへば、大體その心になり得ようが、お話や遊戯はいつもその用意が出來てゐるものではない。但

しゝ話は大体受身のものだから、鑑賞態度のものだから、何時でもよろこぶが、踊れよ、歌へよの方はそれと同じ並にはいかぬものと思ふ。私は組立てゝもまあいゝと思ふが、たゞ製作は個々の動きを限定しないが、遊戯の方はこの手の足と要求が多すぎてゐる。

倉橋 しかし、さあ、踊る時間なのだから列を作つて集まつてといふ、あの取扱ひは疑を持つね。人間生活で何時でも踊れるのはモガかモボだけだらう。普通人はヒマがあつたら、踊りに行くんだからね。まあこの調子で成るべく緩やかに考へてやりたいのだが、今迄のやり方では教育的立場からは、凡べての子供に踊つてもらひたないので、投げ捨てゝはしまへない。

新庄 とすれば、その遊戯は絶対に教育的なものではなくちや。

堀 振附する人が進んで子供を研究するんだ。

倉橋 古い幼稚園では、幼稚園は歌つて踊つて、専ら藝術的、情操的だつた。勝負を争ふとか、競争とか、製作とかの實際生活はそりや淡かつた。今日の幼稚園はそれと違ふ筈だ。

新庄 始めて入園して來ますわね。その時一緒にピアノを弾いて歩かせて居るのですけどね。

倉橋 幼稚園の立前からの話で、子供には模倣本能もあるから行列を作つて歩くのは楽しい筈なんですよ。家じや勝手に歩いてゐるのだが、ピアノがボンと鳴つて立つのが面白いのでせう。その子供の氣持を主にしてね。

新庄 さう説明していたとけば安心しました。もつと外にいゝ方法がないものでせうか。

堀 はじめは一人二人でもいいゝ。次第について來るよ。

新庄 見てだけゐる子供にお入りなさい〜つていふんですか。

堀 さうじゃない。面白くなつて自分から入つて来る。

新庄 なか／＼自分からは入つて来られぬ子供があまりです。

堀 引張り出して来るか。

及川 私なんかは製作の方に忙しくつてついで話も遊戯もしない事が多いのですが。

倉橋 及川さんのブショウがはじまつた。だから先から貴女の方は向かないで話したんですよ（一同笑）

及川 全體が遊戯をしない幼稚園になつてしまつてはこまりますね。

倉橋 さうなるとね、何處がいけないかといふに、遊戯の價値を知らない、子供の遊戯をしたい氣持をとつてやれないのだと責めますよ。只、机の上で遊戯は必ず何時間と配當するのを非難するのです。

堀 自由遊びの中で既にをどりをやつてゐる。私は現在やつてゐるやうなものに大なる價値を認めないものがある。

倉橋 わがまゝは子供許りぢやない。（一同笑）

及川 上手にピアノを弾いて、子供がよつて来るよ、うだといふんですけど。

倉橋 そのようはさしますね。話の時に出て出たのと同じです、製作なら誰にでも、出来るけれど——幼稚園の中に、ハリノアナバツロバでも居て「氣の抜けた白鳥」でも踊れるとね。

及川 主事さんがそんな説で、いゝ事にしてこれで遊戯をしなくなつたら、反動でこちらから遊戯をしなければといふ事になりませうね。

倉橋 急所をつきますね。僕等の説も反動なんだ。幼稚園の生活が餘り弛緩して、たまらない所からの反動説でこれが過ぎれば又及川式反動となる。

及川 つまり、さう盛にやらなくてもいゝといふ事に
なりますね。

新庄 みんな踊つた方がいゝんですわね。

倉橋 願はしい。

及川 入園して、幼稚園に入つたらしく目立つもの
がないから、

倉橋 組全體としての形としては話をしてだまらせ
るか、「お手々つないで」よりない。

新庄 いやだつてしない子供を一人ぢつとさせとく
のは氣持が悪くて仕様がなくてすけれど。

及川 嫌ひな子供は遊戯室にゐない。が仕事するの
でもない。だから遊戯室へ連れて來て見せてお
きます。

倉橋 特別な強い個性を持つてゐるから許りでなく
缺陷もある。

新庄 わがまゝからだとも思ひますのは、そのいや
な所をとほり抜けてしまへばいゝと思ひますの

に……

倉橋 意識型の子供は遊戯に入れられると馬鹿つば
く感ずるかも知れない。あれは一寸酔つて居る
形ですからな。

新庄 意識型の子供は、すこしみんなより下手だと
思つたらよしてしまひますね。

堀 負け嫌ひ

倉橋 村で、みんなの踊る時に踊らぬ青年はひねく
れたのが多い。踊る方が自然です。變質の子供
としては誰さんと一緒なら踊るといふ場合があ
る。そんな子供は、案外みんなの行き過ぎた後
獨りで踊つて居る事がある。成るべく先生とし
ては、一緒にさせようと努力なさることだ。

堀 なめらかにさ。

倉橋 昔は、子供の踊りやドラマティックのものは
すべて藝術の型になつたものから學んだ。芝居
や踊りを見て眞似た。この頃は子供の中にあ

る踊らんとする氣持を出す、その所が違ふ。

昔の子供は随分踊つた。私なんか芝居許りして居りましたよ。その内容は教育的には不適當なものだつたけれど、藝術の型からあきかへられたものは印象深いものがあります。だからあの時分戸棚の中や物置の中でやつて來ましたが、今頃のはそれ程にやつてみたいのがなくて、猫のまね犬のまねとかですから、淡いようです。つまりやつぱり踊りのうまい先生がいる。

堀 自由畫と臨畫のようなものさ、筋肉の發達にもよるし、大體手足の動き方もさまつてゐるのだから、適當な型によつて練習させて行く事は必要だ、何でも自分の型に入れるといふのはい

○

倉橋 西洋には表情遊戯とリトミック許りでもない。ゲームが多いね。日本はそれが少なすぎる

新庄 何ういふものをすればよろしいでせう。

倉橋 自由遊戯の名で行はれてゐる室内遊戯をとり入れるといふね。昔はあつたがこの頃は尠い。堀 殆んどない。まるく輪になつてゐるセンタールにボールをおくる、と又ピアノに合せて行進するのを西洋でやつてゐるが、日本じや遊戯室に入るとたゞ踊るのばかり。

新庄 女の子は遊戯をしてくれと云つて來ますよ。そこは女の子とばかりでなくみんなと致しますが。

倉橋 ソーシャル、ゲームを澤山取り入れる事は實際問題として必要ですね。あの「椅子とり」のうなものの。一つゲームがすむとピアノに合せて歩く。あの歩き方にリズムが入つて來る。

堀 時々思つてゐるのだが、スキップは一組でかたまつてしてゐるようだけれども、いはゆる振

(以下四八頁につづく)

幼 児 の 握 力 調 査

東京女子高等師範學校附屬幼稚園

昭和四年十一月測定の握力平均

年長組男兒	右	八・一	左	七・一	Y	8.5	9.0	K	8.0	6.5
同 女兒	右	六・七	左	五・七	I	8.5	6.5	E	8.0	7.0
同 女兒	右	六・七	左	五・七	F	7.5	6.5	M	7.9	6.0
年少組男兒	右	六・三	左	五・五	F	5.0	5.0	O	10.5	8.0
同 女兒	右	五・三	左	四・八	O	7.5	6.0			

備考 検査はコリント氏握力計を用ふ

(女 児)

三回反復し其最大數を選ぶ
 度數の數字は疋を表す

海 の 組 (男兒)		氏 名		氏 名		氏 名	
氏 名	右	左	氏 名	右	左	氏 名	右
T	5.0	4.5	O	6.5	6.5	F	8.5
K	9.0	8.0	I	9.0	8.5	Y	8.5
S	8.0	7.0	K	6.0	5.5	N	8.0
			A	6.5	4.5	S	8.0
			F	6.0	6.0	F	10.0
			K	6.0	4.5	T	8.5
			I	9.0	8.5		
			M	5.5	8.5		

池の組 (男児)

氏名	右	左	氏名	右	左	氏名	右	左	氏名	右	左
S	7.0	6.0	I	7.5	6.0	T	10.0	7.0	Y	5.5	8.0
I	9.0	7.0	M	9.0	8.0	Y	9.0	7.5	M	12.0	8.0
E	11.0	8.5	K	6.0	5.0	N	9.0	8.0	K	10.0	10.0
M	5.5	7.0	Y	8.5	8.0	O	8.0	8.0	A	8.0	6.0
S	8.5	8.0	Y	7.5	7.0	T	8.0	6.0	M	8.0	10.0
						W	9.0	6.0	H	8.0	7.0
						N	7.0	7.0	S	12.0	9.0

(女児)

氏名	右	左	氏名	右	左	氏名	右	左	氏名	右	左
K	7.0	7.0	M	7.5	6.0	S	6.0	5.0			
O	4.5	4.0	O	7.5	5.0						
K	8.0	6.0	S	8.5	8.0	氏名	右	左	氏名	右	左
O	6.0	5.0	N	6.0	5.0	S	7.0	6.0	K	6.0	6.5
N	6.5	6.0	T	10.0	4.0	S	7.0	5.0	O	6.0	8.0
Y	6.0	4.0	O	4.0	3.0	S	7.0	5.0	K	5.0	5.0
H	2.5	2.5	M	8.5	8.0	T	8.5	7.5	N	7.0	6.5
						K	6.0	6.0	T	6.0	5.0

山の組 (男児)

(以上年長組)

川の組 (男児)

氏名	右	左	氏名	右	左
S	—	—	I	5.5	4.5
H	6.5	6.0	S	6.0	7.0
O	10.0	6.5	A	6.5	6.0
K	7.5	6.0	M	10.0	8.0
O	7.0	6.0	T	7.0	8.0
M	6.5	7.0	Y	9.0	7.5
K	4.0	5.0	H	5.5	5.0
N	5.0	4.0	Y	7.5	6.0

林の組 (男児)

氏名	右	左	氏名	右	左
H	5.5	4.5	S	7.0	6.0
S	5.5	4.0	S	5.5	5.0
S	8.0	7.0	K	6.5	6.0
K	5.5	5.0	T	6.0	5.5
K	6.0	5.0	T	7.0	6.0
H	5.5	5.0	O	5.0	4.0
M	4.0	3.0			

(女児)

氏名	右	左	氏名	右	左
G	5.5	5.0	M	6.0	6.0
F	3.0	2.5	A	5.5	5.0
K	6.0	7.0	O	5.5	5.0
A	4.0	3.0	I	2.5	2.5
N	6.0	5.0	I	4.0	3.5

(女児)

氏名	右	左	氏名	右	左
I	5.5	4.5	F	7.0	7.5
T	7.5	7.0	Y	5.0	4.0
F	6.5	5.5	Y	7.0	7.0
N	6.0	5.0	R	5.5	5.5
T	4.0	3.5	A	4.0	3.0
I	6.0	4.0	S	—	—

W — —

森の組 (男兒)

氏名 右 左 氏名 右 左

A 5.0 5.0 K 6.0 6.5

K 5.5 5.5 E 6.0 5.5

S 8.0 7.0 H 7.5 6.0

T 5.5 7.0 K 6.5 6.5

H 6.0 5.5 M 7.0 5.5

I 6.5 5.0 O — —

G 6.0 6.0 O 5.5 5.5

N 5.0 4.5 N 5.0 5.0

O 4.5 4.0

(女 兒)

氏名 右 左 氏名 右 左

T 5.0 4.5 T 4.0 6.0

I 6.0 5.0 S 7.0 7.5

H 5.5 4.5 T 5.0 4.0

S 5.5 5.0 H 5.5 4.5
 O 5.5 5.0 K 4.0 3.5
 S 6.0 5.0

新刊紹介

童話と其の味ひ方解説 長尾豊著

兼ねてこの方面に著書の多い長尾氏が、赤
 づきん、狼と七匹の小山羊、ヘンゼルとグレ
 エテル、ヨリンデとヨリンデル、灰ひすめ、
 青い火、茨から出た五つの豆、錫の兵隊、火打
 箱、アランデンとふしぎなランプの十篇々例
 にとり、「童話鑑賞の指示」「童話創作の方へ」
 適切な具體的な説明を與へられたものであり
 ます。

(定價二圓十錢 厚生閣書店發兌)

五十餘年前大阪より保育 見習の爲め上京せし思出

氏 原 鋳

明治十一年二月大阪府の命により私と木村未さんの二人、東京女子師範學校附屬幼稚園へ保姆見習の爲め上京する事となり、先づ其旅の事を述べます。其頃は未だ、東海道線の布設が出来て有りませず、鐵道としては東京横濱間と大阪神戸間のみで、其中間は海上で行かねばなりません時代で、先づ梅田驛（今の大阪）から汽車で神戸に出て、海岸通の汽船取扱所なる蓬萊屋に著き、横濱迄乗船の手續きをなし、それから神戸港で郵船會社の西京丸と言ふ大船に乗込むに、和船の少さはしけのグラグラして餘り氣持ちのよくないもので、

本船西京丸に著き、此グラグラのはしげに本船西京丸から鐵の階子ををろされ、之に上る時の心持は下は波立つ海面、一步踏みはづしたら身は危く一生懸命に階子につかまつて、南無阿陀佛を唱へて辛ふじて乗り込みました。今日はどんな大船でも棧橋に横づけされて、何の心配もなく樂に乗船が出来て結構な時代となりました。其船室は下等客の事とて船底、廣々室で、多人數同居で、彼の西南役、翌年、事、白衣、着た病傷兵が多數乗へて居りました。船が出帆しました。波路穩やかに紀州沖にかゝりました時、左方那智山腹より長

く白布をかけたものが見ゆ、之れが有名な那智の大瀑布で、夕陽に映じて美しく、遠州灘を過ぎ翌日午後伊豆沖にかゝりし時、左方富岳を見、右方遙に大島噴火山の煙を見る。夜に入り横濱港に着、蓬萊屋に休息。翌日横濱驛より汽車で東京に向ふ。此鐵道の品川驛より新橋驛に至る（今汐留驛）間の線路は今日と趣きが少しく變つて居ります夫れは品川驛より新橋驛（今の汐留驛）開通に至る間は其鐵道は海に沿ふたもので、車窓より東京灣の景を眺め、心も晴々したものなりしが、今は芝浦の海面、十萬坪の埋立地が出来其處には汽車運輸の發展により、廣き操車場となり其他諸種の工業場の立ち並びて、海面の風光は見られぬ様になりました。新橋驛（今の汐留）に着きました、當時は乗降口共に一方で、現今の東京驛に比すべくもなき實に小規模のものなりし。夫れより東京女子師範學校附屬幼稚園主事關信三先生の、御徒

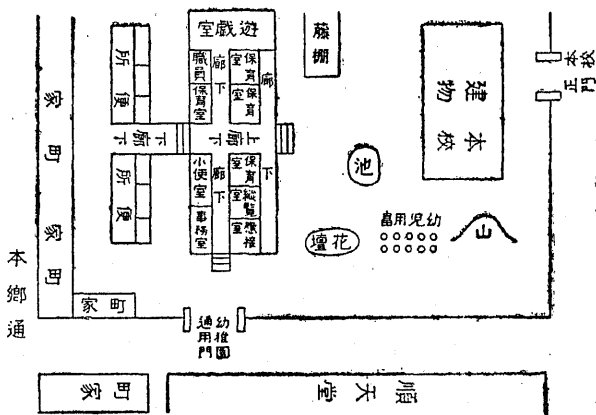
町の邸に行き、大阪府學務課長の添書を差出して來意を告げ、翌日より茶の水幼稚園に入學すべく思ひしに、其運びが出来ません、之れは本校より大阪府に係見習生を置くと回答したるも、斯様に早く私共の上京せぬものとし、其保姆見習生に關する規則時間割等が未だ出来てなく、之れの準備を整へ數日の後に出頭せよとの通知を受けました。之れは大阪府が、幼兒保育の必要を感じ、一日も早く開園せんものと本校よりの回答に接し直ちに、私共兩人を急に上京せしめたもので、早手廻はしの失敗なりし。併し此早手廻しが他府縣に卒先して、大阪府の第一番に開園出来たものなり。さて此保姆見習傳習濟みの期間は、六ヶ月と言ふ事なりしにより、大阪府は其積りて私共を留學させましたに、到底六ヶ月ではものにならぬとて、十ヶ月となされました。之れも最初の事として、見當が付かなかつたものならん。入學に付て

は、極簡易な試験により入學許可の指令を受けました。(今日ならばとても及第は出来る身では有りません) 入學後は實地保育、宮内省伶人先生の唱歌、松野クララ先生の保育法、豊田英雄先生の幼稚園記並に保育法、近藤濱先生の手技製作等で、中で一番休みが多くて進まぬのは、クララ先生の保育の講義で、之れは通譯付き講義で此通譯には關監督が擔當せらるゝのですが、此講義の當日、クララ先生が出勤せられても、關先生缺勤の時は講義は出来ませず、又關先生が出勤せられても、クララ先生の缺勤の日は休みとなるもので、此兩先生の出勤が揃ふ事が無く、一週中一回もない時があつて、留學生の身として一番閉口いたしました。二ヶ月か一ヶ月に相當する様なもので有りました。今日お茶の水幼稚園に勉強せらるゝ、保育實習生諸氏は、其講師諸先生の御健康で休講の迷惑なく、進まるゝ事は實に幸福な事で、昔時の不

備時代を顧みて感慨無量の感あり。

お茶の水幼稚園建物及び庭園に付ては、前年其

お茶の水川



略圖を本誌に

掲載されましたが、今序ながら其概要を述べます、建物は床高平屋の西洋造りて其地下の中央に大暖爐を設け之れより建物全部に鐵管より火氣を送る装置で、之れは幼児に危険のない暖氣の取り方でありましたのに、其構造に工合あしき點ありて、思ふ様に火力

が通ぜず、此折角の注意案も用を爲さざりし事となりし。残念の極みなりし。其園舎は、遊戯室、保育室、縦覽室、應接室、職員室、事務室、小使室、兼附添人、控室等で、此建物は、明治九年十一月落成、同十七年九月に大風雨の爲めに大損害を興へられて、入口は正反對、其他の模様もすつかり變つた再築園舎が出来ましたもので、本圖は

明治九年より同十七年に至る間の初回のものなり、(現在のものは大正十二年震災後の第三回建物なるは御承知の通り)其庭に面する建物に添ふて廣き廊下あり、其庭園は、泉水、築山、花壇、藤棚、幼兒一人用の畠等あり、尙廣き芝生あり、當時は本校用の建物の少ない時代で、廣々した空地ありて遊園が十分ありました。職員は、監事關信三氏、首席保姆松野クララ氏、保姆豊田英雄氏、同近藤濱氏、手傳山田某、同大塚某、事務員二人小使男一人女二人、尙英語練習の爲め、クララ氏

に附隨して保育を手傳はれる中村攝理の令嬢高子さんあり、其當時幼兒の服装は和服で中に西郷從理さん黒川幹太郎さんなどが、洋服を着て居られました、女兒には全く洋服者はありませんでした。又保姆は、松野クララ氏の外は皆和服でした。袴をはいて、頭髮は丸まげいてう返へし等でした。

當時の唱歌は雅樂の旋律によるもので、其調子は長く優美で其歌詞は雅言多く、其意味の幼兒に解し兼るものありしが、幼兒は其旋律の雅趣ある快感によく唱ひ樂しめり。之れは恰も今日唱歌を伴はざる奏樂又はマーチを聽き快感を得るもの、如し、其樂器は、雅樂用の六絃琴で、其音響は實に微なるもので、大勢の幼兒に對し例へ二面を彈ずるも其興味を惹起するに乏しく、唯バチバチと拍つ笏拍子により、其基礎をなすもて、如し。右の彈琴も其唱歌により其調子を立て直ほす手數あ

る爲めに、常用はなされず、其不便なる、今日オルガンの比に非ず。當時西洋樂器としては、本校幼稚園を通じて唯一のピアノの一臺が幼稚園遊戯室にあるのみ、此彈奏は松野クララ先生が、一週中二回朝の會集の時ひかれるもので、他の日本人保姆は之れを彈ずる術を知らず、夫れ故に一週二回の松野先生の洋琴合唱を、幼兒を初めとし私共も大に樂みになす事なりし。依て、保育上遊戯其他の唱歌には、樂器によらずしてなされし。之れは今日の如く我國で樂器の製造出來ず、舶來に待つ時代で、購入高價なるによるものと其彈く術を我國人の知らざりしによるものなり。尙保姆諸氏初め私共等の宮内省附きの伶人先生に唱歌を教へらるゝ時も、笏拍子により其發音を調子笛に取り口移しに習ひました。夫れで私共の幼兒に對する唱歌も手拍子で口移しに唱歌を謠はし幼兒も同じく手拍子で唱歌を致しました。手技中の豆細工に付き

一言致し度事は、此手技は獨乙傳來では大豆に細く削りし木箸の兩端を其製作に當り小刀を以て削りて尖らし之れを大豆、小錐で孔をあけたものにさして作る實に手數で、最小の幼兒は申迄もなく最長の幼兒でも製作上容易ならざりしものを、當時の保姆近藤濱先生が、大豆の細長き體面に代るに豌豆の丸くして四方よりさし易く且其細木を削りて爲しにくきものに代るに、提灯屋で竹の屑を求めて、自由に豆に接合し、最小幼兒にも實に容易に製作し得るものとせられたる先生の此發明を大に感謝すべきものなり。幼稚園の事は此位にして置いて、序に本校の事を記るします。此東京女子師範學校（今の女子高等師範）は明治八年十一月 昭憲皇后陛下御臨幸開校式を舉げられ、教育獎勵の思召なる左の御製を下賜せらる。

みがかずば玉も鏡もなにかせん

學びの道もかくこそありけれ

(此御製は大正十二年震災迄は別室に奉揚してありましたが現在は如何なりしや)

其職員は、攝理中村正直氏、幹事永井久一郎氏、

幹事田中直吉氏、教師柴田某氏、同關信三氏、教

師大村斐夫氏、同茂木喜太氏、同淺岡一氏、教師

宮川保全氏、同村岡爲範馳氏、同北條直氏(以上男職員)

教師松本荻江氏、同竹村千佐氏、同棚橋綾氏、同

近藤スワ氏、同福田某氏、舍監藤川某氏、舍監山

川二葉氏、此外體操の先生は忘れしました(以上女職員)

此女職員は、幼稚園職員同様に、髪は年長者丸

まげ若きはいてふ返へしに結つて、しまの袴をは

き生徒は唐人まげに白丈け長をかけ、銀製一イン

チ位の櫻花のかんざしの花瓣に、女子師範學校と

彫つたものを學校の紀章としてさし、袴は瓦斯じ

まの大がらの藍じまを着用されました。

此本校敷地は、其當時現在の約三分の一で夫れ

は其隣に、男子師範學校(現今東京高等師範學校)

がありまして、其後(年月不明)此男子師範學校

が、大塚に移されて其建物敷地は、全部現在の女子高等師範學校に併合せられ廣くなつたのです。

(現在の本校正門は昔時男子師範學校の正門で現在の通用門は昔時女子師範學校の正門なりし)

以上此校園も遠からず大塚に新築移轉せらるゝ事となり、此お茶の水の地に永久別るゝ事の惜別の情禁ずる能はず、爰に此校園に對し、思ひ出の記事をなす。

記事をなす。

(三八頁よりつゞく)

を附けた遊戯の中にもあんなのが入つたらと思ふ。

ふ。

新庄 ございますよ。

倉橋 もう此邊でお菓子を下さい。今日は少し僕が

しやべり過ぎたらしい。

堀 現在振つけの遊戯を子供に人氣投票して見ち

や何う。

及川 子供ひとりづゝでさいてみませう。

關西保育大會の今昔

膳 眞 規 子

昭和四年十月、京都洛西の美しき秋の自然に浴し度嗟哦に歸りました。折しも其十七日は關西保育大會が神戸市に開催されますので、久方振りて皆様にもお目にかゝり度席末を汚しまして其盛況に驚喜いたしました。第一其會場の最も氣持よき

場所なる事、此處は神戸市立第三高等女學校で、最近長田に新設せられたる市内の雑踏を避け閑靜な風光よき、會場として誠に申分なき處で御座いました。

當日の出席總數一千餘名、京都大阪神戸岡山名古屋の五市會員は申迄もなく、全國東西よりの來會者にして、婦人の會合としては盛んなる事と、

慶賀の至りて御座います。此盛況を見、本會の創立當時（明治三十二年今を距る三十四年）の徴々たる時代を顧み、對照して斯の發展に付き今昔の感深く、左に其概要を陳ぶ。

抑本會は明治三十二年、京阪神三市保育會の代表者が其中央市なる大阪市に會合して、幼兒教育の研究發達の爲め、三市聯合保育會を、三市交るゝ一年一回若くは二回開催して斯道の研究に資せん事を協議し、直ちに成立して同年十一月初めて京都市揚梅幼稚園に於て、第一回京阪神聯合保育會を開催す。之れが關西保育大會の起源なり。

爾來京阪神の三市交るゝ聯合會を開催し、其

都度岡山市名古屋市より保育會員の來會者を増加し、本會の爲め賛助せらるゝ處多く終に、此岡山市名古屋市を京阪神の三市に併せて、^{昭和二年}十一月五市聯合會保育會と稱し次で、^{十一月}關西保育會と改稱するに至れるものなり。初聯合會設立に付ては、

最初會員も少く又、之に對する經費も餘り裕かならず、京阪神三市共に其幹部は相當なる苦心ありしも能く此難關に處し、今日に繼續せられたる代々の幹部諸氏に對し多々感謝して止まざる次第で御座います。

昔時に於ける保育會の狀況に付て特に陳ぶべき事は婦人多數の會合に、婦人の發言者稀にて、主として男會員に委ねて省みざる風ありしが、今回の關西保育大會に於ては各市提出の、討議題・研究問題等に付き其提出説明の任に當れるは、婦人のみにて、登壇發表には言語明瞭に系統立ちたる巧みなる發言振りに感じ、昔時の男子に發言を托し

て省みざりし時代を比し、歎美萬々其進歩を感喜して止まざる次第なり。

終に臨み關西保育大會狀況の概要を陳べんに、當日は堂に滿つる一千餘名の出席者は、東京女高師倉橋教授の有益なる御講演に一同感激し、各市より提出の討議問題・研究問題を議し、趣味深き研究發表をなし終に各市より、獨特斬新なる考案遊戲の交換あり、斯道の爲め最も有益に閉會をなせり。此大會が三十四年前創立の聯合會より第三十六回に當るものなり。以上本會の明治三十二年創立當時より本會に微力ながら關係せる身の、今日の盛況を祝し、益々發展せん事を祈る。尙此會合が關西大會に限られずして全國的保育大會の開催期の來らん事を切望す。

正誤 一月號の「丸ばかりで作る切抜細工」の挿入寫真中第四圖と第五圖とは入れ違ひに付き訂正す。

おはなしについての反省

大塚喜一

先月號の本誌の「談話についての座談會」を興深く拜見したので、此機會に僕の今日までの經驗を省みて何か記する事もがなと思つてゐたら、丁度編輯係りの方から何か書く様にとの御手紙を頂いたので、つまらぬ自分の感想を記して御目にかける事にしやう。

思ひ起せば今より十數年の昔、只何となく幼稚園兒に接觸したい氣持になつて、自分が嘗て保育を受けた先生を慕つて母園を訪ふた。先生方に歓迎せられ、幼兒達の純眞無邪氣が感觸に此世の天國に遊ぶ心地した僕は、高等學校の休暇毎に次第に頻繁に園を訪ふやうになり遂に

「此度來なざる時は子供達へのお話を何か考へて下さるやうに」との催促を受くるに至つた。そして怒る／＼子供達の前へ立つた。最初は言葉もつかへた、語尾も不明瞭であつたらしい。しかし物珍らしさに好奇心を起してか、其後子供達が僕の姿を見ると「兄ちゃんお話！」と寄りそふて來るやうになつた。朝から遊園の一隅で、膝の上も肩からも重なり合つてお話をきいてゐる子供達にうづまつてゐる自分の姿を見出したのは其後屢々であつた。

斯くするうち、或日僕は或るお話會で『猪と七匹の羊』の實演を聴いてから、僕の「おはな

し」の態度は一變した。此お話は僕の十八番オハコになつて、同じ子供達にも幾度も繰返した。「もう一つして！ 羊！ 羊！」とアンコールされた事もあつた。僕は此お話によつて得たコツを廣く一般に應用する様に努め、更に之を話す事に依つて得た心の力を原動力として他の實演に向ふ様になつた。

もし「此世に於て君は何が一番楽しいか」と問はれたならば「それは幼児達へのお話の世界である。」と僕は答へる。數箇月の學生々活を終り樂しき希望を胸に抱いて故郷へ歸つた。其翌日、僕が園内に入るや否や子供達は八方から飛つて來てくれる。以前にも増した熱狂的歡迎其人間性の純眞赤裸々の發露に對し、僕は何を以て報ひやうかと思つた。親しい子供達と面接してゐながらまだ相互の心と心との間には薄紙一枚の隔りがある様な氣がしてならなかつた。

しかし一度「お話の世界の眞實味」を味つてからは、此障壁は完全に撤去せられた。これこそ子供達に報ひべき眞實の道である。まああの可愛いお眼まなこ々を瞬またまもさせずに、一心にお話を聞いてゐる——三百人の子供達が一人残らず！ そうした情景が今一段の佳境に入ると、最早「お話」以外に何物もなき全我沒頭の境地が體現せられる。僕は、此處に全園兒と合一する境を見出した。

誠に幼児達のお話に對する希求喝仰の念は驚くべき程である。この唱仰を満足せしめむと、拙きながら不充分ながらも話材の精選と反復せる腹案とを以て幼児達の前に立つた。しかし、斯うした幾度かのお話の中で自ら満足し得る快心の作ともいふべきは極めて僅であつた。願れば失敗の跡はまざ／＼と残つてゐた。にも拘らず、幼児達のお話に對する熱求は僕をして過ぎ

し失敗に執着せしめず之を階梯として更に斯道へ精進するの力を與へてくれた。僕が今日此の拙文を諸賢に呈して批判を乞ふを得るのも實に愛する幾多の幼兒達の賜である。記して茲に到る時、感激の涙と共に筆の止るを覺えるのである。

X X X X

次に僕の日記帳からお話の度毎に記した感想録を摘記する。日附及出所は紙面の都合上省略し、題と所とを初めに記すことにする。

五〇〇の兵隊 Y氏方にて來訪の子達十数名に。

小人數に話す事は稀であるが、可愛い、子達の謹聴振りを目のあたり見ていつもよりはずつと樂に氣安く話を進め得た、殊にC子ちゃんの熱心な聴振りにには傍聴の家族の方々も感心せられた程であった。小生も今迄の多勢にする「お話」の體驗以外に更に新しい境地がある事を暗示せられ、幼稚園のお話は家庭的團樂を本體とすべしといふ事が實感せられた。

ガリパ旅行談 堺第一幼稚園

久しぶりのお話の機を得た今日は充分お話に没頭する事に努め、従來の僕の弊たる自分の説振りや子供の聴く態度を顧慮する自意識の混入を出来るだけ少くしやうとした。

正直正月 同

話中に出て來る事件や物等につき幼兒の想像的發表盛に

出づ。

ゴム風船 同

昨日京都より歸堺の模様を摺換として述べしに引續き、具體的心境を保たしむべく努力しつゝ話中に誘導した。此お話は松美主事の創作せられしもので理解容易、興味あり且有益なる三拍子揃つた作品である。僕は先日の久留島先生の講習に鑑み話の頂點のみ大なる動作を用ひ全兒の興味高調せる拍手を受けたが他はなるべく象徴的態度に止め、殊に腰の据りに留意した。

正直靴師 同

二日讀きにて爲したが、注意とまり難く平生に比し成績思はしからざりしは遺憾、されど話の間催の時間なれども一齊に注意のまともりたる場面もあり。今後自ら願ひて日に進み日に新にすべき境地あるを思はしむ。

まり子さん 京都城巽幼稚園

注意の集中に少しく足らなかつた憾はあつたが、鹽崎先生がよく童話の理解を敷衍し其精神を尊重して自由遊を指導せられた。次の時間の畫方にて、男兒は軍艦、女兒は人形をお話中の一場面の表現として描きどの兒も皆お話に就ての畫を描き得たので、我園への貴重なる参考啓發の資料として頂いて歸つた。

兎の井戸、家鶏と家鴨と豚 成城幼稚園

雨天にて外遊出来ざる爲希望の兒だけ室に集めて爲す。

凡そ十五名ばかり、幼稚園のお話には極めて適當なる人數なるを今にして實感せる様に思ふ。幼兒等の話中の感應共鳴誠に面白さうであつた。其他話の後の個人的に對話し得らるゝ所等小人數獨特の境地あり。

三人の敷物 同

朝日さす室内に火鉢をかこみながら登園の兒等十名ばかり各組入混り會話を爲し居たる折、N子さん其他の兒等の要望によりお話を初む。年少兒もよく聽いてゐたが話中に出て来る動物の話等勝手々々に爲すために大きい兒は、ルサイといふ。しかし一般は面白さうであつた。終りし時例の如くアンコールありしが他日を約し之にて止む。

この自評の中にも告白せる如く、幼稚園に於けるお話は少數の幼兒の團欒を以て本體とすべきであらう。しかしそれなるが故に大勢の幼兒を集めてのお話は出来ぬもの保育の原則に反するものとして排斥すべきではないと思ふ。話の成功失敗や其教育效果の徹底度換言すれば、如何に其お話が話者の期待する如くに幼兒達の心に受入れられて行くかは、話者の精神的準備とお話の際の心講へとに主要なる原因を有するので、人數は其次に位すべき條件であらう。お話を聽きつゝある幼兒は其一景一物を順次に自己の經驗中より再生せしめ、想像力によりて各自の世界に住み、現實にては經驗し難き情意の働きを經驗し幼兒獨特の願望欲求等の満足せられてゆくのに快哉を叫んでゐる。幼兒は話者からかゝる心的經驗をさせてもらひたさに「お話」を熱求してゐるのであるから、話者が此期待に

幼 兒 漫 談

水 谷 年 惠

一

ま唯今。」

ちい坊「……………」

女中「誰か來ましたか。」

ちい坊「來たよ。」

女中「やつぱり。今變な人が裏門から出て行きまし

たよ。おゝ、こはい。人さらひでしよ。」

ちい坊「うゝん違ふよ。蝙蝠直しだよ。」

女中「へえ！、蝙蝠直し——よくおわかりになりま

したね。」

ちい坊「聞いて見たよ。蝙蝠直しだと言つたよ。」

女中「まあ坊ちやま、あなた、何てお聞きになりま

したの。」

ちい坊「お前、人さらひかいつて。

女中「坊ちやま、ねえやが一寸角の魚屋まで行つて

參りますからね、何處へもいらつしつてはいけ

ませんよ。ちやんとおうちにはいらつしやるので

すよ。人さらひが來て、遠い所へ連れていつて

しまふと大變ですから、ちやんとおうちにはいら

つしやいね。」

ちい坊「うん、ゐるよ。」

女中「ぢや、いつて參ります。すぐ歸つて來ますか

らね。」

x x x x

女中「あらまあ氣味の悪い——人のうちの裏口を覗

いたりして、いやな人ね……」大聲に「坊ちや

女中「お前人さらひかいつて？そしたら。」

ちい坊「そしたら、『いゝえ、蝙蝠直しです。』つて言つたよ。」

二

父「さ、皆、いゝかい。父さんについて来るんだよ。父さんを離れちやだめだよ。たあ坊、父さんの肩にしつかりつかまつてお出でよ。花子、母さんの手を離しちやいけないよ。さ、お出で。」

母「まあ大變な火の子。髪の毛も着物も火の子で焼けるわ。」

父「其處まで焼けて來てはもうおしまひだ。」

母「うちも直ぐ焼けてしまふのね。何一つ取出す事も出來ず、着のみ着のまゝ逃げて行くのね。」

父「生命さへありやあ、又何でも出來るよ。たあ坊いゝかい。花子しつかりお歩き。」

x x x x

母「やつと森まで來ましたね。」

父「此處まで逃げて來りや、もう大丈夫だ。」

母「花ちゃん、さあ草の上へお坐り。」

花子「……………」

父「花子もう此處まで焼けて來はしないから安心してお出で。たあ坊さあおんりしな。」

母「あら、たあ坊が何か持つてゐますよ。」

父「何だ、其の風呂敷包は。」

たあ坊「……………」

母「たあ坊の手から風呂敷包を取つて開く「あら、

ばちんこと磁石。」

父「あつは……………」

母「おほ……………」

花子「うふ……………」

父「たあ坊の財産だ。大事の大事の寶だ。」

母「たあちゃん、それで何するの。」

たあ坊「磁石で方角見るの、どつちへ逃げるか見る

の。」

母「へえ、ぢや、ばちんこは？」

たあ坊「木に止つてる小鳥をねらつて打つて、落ちて來たら、みんなで食べるの。」

父「あつは……………」

母「おほ……………」

花子「えへ……………」

父「たあ坊をいきなり抱上げて高く差上げ、」えら
い、たあ坊、えらい、くくくくく。」

たあ坊大得意で「高いよ——高いよ——高いよ——」

三

姉「三ちゃん、一寸お坐り。あのね、八幡様のねお
庭に豆が十あつたのよ。」

三郎「食卓の上に撒かれた菓子のおろを見て、そ
れ豆ぢやないよ。おろぢやないか。」

姉「豆とするのよ。ね豆が十あるのよ。其處へ八
幡様の鳩が飛んで來たのよ。」

三郎「八幡様の鳩？ 何處へ來たの、來やあしな

よ。」

姉「來たと假定するのよ。」

三郎「假定つてなあに？」

姉「おろを三つ掴みとつて、まあまあ、鳩がね、
あしあし、あしあしつてね、豆をね、三つ食べ
たのよ。そしたらあとに、もう幾つあつて。指
で此の豆を、一つ二つと數へて御覽なさい。」

三郎「一つ、二つ、三つ、四つ、五つ、六つ、七つ

——七つ。」

姉「どうくくく。七つよ。三ちゃんよくわかる

わね。」

姉「ぢやあね、お客様がね三人いらつしやつたの
よ。其のお客様にね、お蜜柑をね、二つづゝ差
上げるのよ。幾つお蜜柑があつたらいいの。」

三郎指を折りながら「一つ、二つ。三つ、四つ。五つ、
六つ。」

姉「あらまあ、えらいはね。三ちゃんよく出来ました。も一つしませうね、姉さんがね、鉛筆を十本もつてるのよ、それから三ちゃんが六本持つてるの、そしたら姉さんのと、三ちゃんのと合せて何本になるの。」

三郎指を折りながら「一本、二本、三本、四本、五本、六本、七本、八本、九本、十本——（兩手を握りこぶしにしたまゝ）誰かお手を貸してよう——」

四

まり子家の前の往還に立つてゐる。向ふから百姓鍬をかついで来る。

まり子「をぢさん、何處へ行くの。」

百姓「畑へ行くの。」

まり子「何しに行くの。」

百姓「芋掘りに。」

馬子馬をひいて来る。

まり子「をぢさん、何處へ行くの。」

馬子「遠くの町へ。」

まり子「何しに行くの。」

馬子「馬引いて行くの。」

おかみさん「笹を持って来る。」

まり子「をばさん、何處へ行くの。」

おかみさん「豆腐屋へ行くの。」

まり子「何しに行くの。」

おかみさん「豆腐買ひに。」

寺の小僧口笛吹きながら来る。

まり子「何處へ行くの。」

小僧「おうちへ歸るの。」

まり子「何しに歸るの。」

小僧「お萩食べに歸るの。」

まり子家へ駆込んで、

まり子「母ちゃん、まり子にもお萩ちやうだい——」

× × ×

× × ×

人形お菓子の家

菊池ふじの

第一場 森の中

グリムの童話ヘンゼルとグレーテルの中の、お菓子の家のあたりを中心として人形芝居化したして見ました。二場どいたしました。ヘンゼルとグレーテルの二人が、森の中をさ迷ひ歩いてゐる中に、遙か彼方に美しい家の影をみとめたので、それに近づいて見ると不思議にも自分達の大好きなお菓子で出来てる家だったので、こわくながらも堪りかねて食べ始めると、中から聲がして魔女が現れて、對話するあたりまでを第一場とし、その後魔女の家でグレーテルが働いたり、ヘンゼルが危ふく食べられ様としたこと、おしまひに遂々魔女を亡ぼして、ホットして二人でお家へ歸るところまでを第二場といたして見ました。

ヘンゼル

—— 卵人形、紺のビロードの洋服に、茶の糸編みの帽子をかぶらせました。

グレーテル

—— 同じく卵人形、エンジの洋服に赤の糸編みの帽子をかぶらせる。

魔

女

—— 箱人形。頭に茶の毛糸で少し長い髪をつけ、顔は茶色に塗りました。鼻を釣合ひが悪い程高く、着物は、上を白、下を茶のラシヤで作りました。

背

景—— 森の中。

お菓子の家

—— 茶ボールで拵へたお家の、屋根や、壁等にビスケット、おせんべい等のお菓子を貼りつけました。このお菓子を、繪で現してもいゝと思ひます。

——幕開く——

六〇

「二人が對話しながら出て来る。」

グレイテル「今日ももう夕方になつてしまつたのにまだお家がわからない。どうしませうお兄さん？」

ヘンゼル「そうだね、困つてしまふなあ、でも大丈夫だよ、何とかなるよ、この道をずつと行つて見よう。」

グレイテル「あゝお兄さん、こんな大きな樹がある。随分大きな樹ね。」

ヘンゼル「あゝ、大きい樹だね、空までとどきそうだ。この下は大きな樹のトンネルみたいだね、薄暗くて。あ、あつちの方に、きれいな啼き聲がしてるよ、ほらきこえるだらう。」

グレイテル「あ、ほんとにきれいな聲ね。何ていふ鳥でせう。森の中はほんとに面白いのね、いつまでも遊んで居たいけど、でもお家がわ

からなくて困つてしまふ。」

ヘンゼル「そうだね、どうしよう。と思案げにあたりを見廻す。あゝあつちの方に家が見える様だ、あそこで尋ねて見よう。」

グレイテル「そうね、あすこの家に、きつと人が居るわねえ、その人にきけば分るわね。」
ヘンゼル「あゝ、分るだらう。早く行かう。」

「二人急ぐ、」

グレイテル「何だかあのお家、お菓子で出来てる様だわ、お兄さんご覧なさい、ね！」

ヘンゼル「あゝ、そうだね、たしかにお菓子だ、壁はビスケット、屋根はおせんべいの様、土臺の石はチョコレートだ。不思議な家だね、早く行つて見よう。」

グレイテル「ほんとに不思議だわね、早く行つて見ませう、お菓子の家なんて、丸で夢の様だわ、嬉しいなあ、早く行きませうお兄さん。」

「お菓子の家の前まで来る。」

ヘンゼル「あゝスバラシイなあ、こんな家、僕今

まで見たこともなかつた。すばらしいなあ！」

グレイテル「まあすばらしいこと！(見入る)こん

なお家に住んでる人はどんな人かしら？ こ

のお家のお菓子食べてもいいのかしら？ わ

たしお腹が空いたわお兄さん。」

ヘンゼル「僕も空いて来た。こゝのビスケット一

寸食べやう。」

「と壁のビスケットをはがして食べる。」

グレイテル「わたしも食べるわ、わたしはこれが

食べたい。」

「と、土臺のチョコレートををはがして食べる、おいしいおい

しいと云ひながら幾つも食べると中から聲がして、」

誰だ

「と、魔女が家の窓から顔を出す。二人はおどろきあどずさ

りをする、魔女は、」

魔女「おゝ子供達、そんなにおどろかなくても

いい、逃げることはないよ。さあ来ておあがり、

り、たんとおあがり。」

「と、云ひながら魔女家の外へ出で来る。で、二人はまた近

寄り、」

二人の子供「おばさん、それではご馳走になりま

す。御馳走さま。」

「と、云ひながらまた食べ始める。それから、」

二人の子供「おばさん、僕達家へ歸る途がわから

ないんですか、どう行つたらいいでせう。教

へて頂裁な。」

魔女「あゝそうか、それは容易いこと、よく教

へて上げるよ、併し今日はもう遅いから、今

晩はわたしの家に泊つて、明日お歸り。中に

はおいしいご馳走が澤山あるからさあ内へお

はいり、さあさあ。」

二人「ハイ。」

「と、返事して、二人先きに内へは入る。魔女、外で考へながら獨言する。」

魔

女「あの男の子は肥つて、おいしいそうだからもつと肥らして食べてやらう。それからあの女の兒は、わたしの下女にして使ふのに丁度いゝ鹽梅だ。」

と、うなづきながら魔女も後より入る。

幕

第二場 魔女の家

室内の背景

左方向ふ隅のあたりに、お釜のかけてある櫃の繪を描く、そして櫃には火が燃えて居り、櫃の三方に切目を入れて、こゝから魔女が落つこちられる様にしておく。その他の所は室内の有様よろしく描き置く。

——開幕く——

「魔女上手の方より舞臺に現れる。獨言を云ふ。」

魔女「今日で五日にもなるのにあの男の子はち

つとも肥らない、毎日おいしいものを與へて肥らさうとしているのにどうしたつて云ふんだらう。めんどう臭いからもう今日は食べてしまふ。それにはお釜にお湯を沸さねばならん。あの女の兒を呼んでさせやう。」

「と、向ふの方を向いて、」

魔

女「これこれ、グレイテルやグレイテル、早くこゝへお出で、早くだよ、早く、早く。」

「ハイ」と、向ふから返事がきこえて、グレイテル下手の方より入り来る。」

グレイテル「おばさん何のご用?」

魔女「あゝグレイテルか、今日はね、もうあのヘンゼルを食べてしまふ。だから、そのお釜を沸かすんだよ、早くだよ、わかつたか。」

グレイテル「あら! おばさん、どうぞそんなことしないで下さる、お願だからお兄さんを食へないで下さる。」

「と、泣かんばかりにして頼む、魔女そんな事にはおかまひ

なしに。併しそや邪けんな聲でもなしに」

魔女「黙れこの小娘！ 今まで毎日ご馳走をやつてゐたのにちつとも肥らないじやないか、めんどろ臭いから、もう今日は食べてしまふんだ、何をくずく云ふか、早く火を焚きつけろ、くずくしてると承知しないぞ。」

「で、しほくとしてグレートル取りかゝる。なか／＼うまく焚きつかない。魔女じれつたがつて、自分で出て行つてアツく小言云ひながら、かゝんでもしつける。そこをグレートル、魔女の後より力一ぱいに押すと、ふいを打たれた魔女、一たまりもなく、竈の火の中こゝろび入る。」

グレートル「あゝよかつた。」

「と、ホットして」

グレートル「お兄さん、お兄さん。」

「と、呼びながら室の外に出て行く。間もなく、二人で話しながら入り来る。」

グレートル「ほんとによかつた。もう少しでお兄さんが食べられてしまふところでしたね。」

ヘンゼル「あゝよかつた。もうこんなところにく

づ／＼しないで早くお家へ歸らう。」

と、二人で室を出る。

幕

(五三頁よりつゞく)

副はむが爲には「お話をする前に先づ其あらゆる情景を明に己が心眼に映せしめ、其一々の心情の動きを切實に感得せねばならぬ。此心の準備さへ充分であるならばたとひ人数は多くても又其他の副次的條件に多少缺くる所ありとも必ずや成功を収め得べく、若しこの心の準備に欠くる所があれば他の條件が如何に具備してゐても其お話の効果は極めて稀薄なるものとなり終るであらう。

櫻雛のつくり方

及川ふみ

材 料

水色、桃色、赤、白、青、緑、黒、黄のいよ
まさ紙、(色がよく紙も厚いので特にこの紙を
用ひます)、畫用紙。

つくり方

親王様

水色のいよまさを直經九センチの圓形にきりぬ
く、これを二つに折つて上方は三ミリ位の隙を
あけて底の重りを二センチ半位になる様に前を
合せて糊ではり合せる。

黒い紙を一ミリ半位の巾に細長く切つて水色の
胸の下から一センチ位のところに帯にして糊で
はりつける。

笏は黄色で巾上部で五ミリ下部で三ミリに長さ
は一センチ半に切つて帯の上部へはりつける。

頭

畫用紙で上部二センチ位のところは巾二ミリ半
下部は八ミリの巾に長さは一〇センチにして、
さきに作つた親王様の胸へ通して上部を一セン
チ出してその出した部分へ表裏兩面へ白の櫻形
の打抜をはり合せる。

冠は黒い紙で切り頭の上へ貼る。

内 裏 様

桃色の紙を親王様と同じく直經九センチの圓形
にきりぬき二つに折つてつくる。
帯は赤でつける。

繪扇は黄色の紙を適當の形に切つて帯の上方へはる。

三官女

赤い紙を直經七センチの圓形に切つて作り方は内裏様に同じ。

帯は桃色とする。

黄色でお銚子も三方など適當に切つてはる。

頭は内裏様と同じくつくる。

五人囃

黄色、三官女と同形につくる。

帯の色は青とする。

頭は内裏様と同じ。

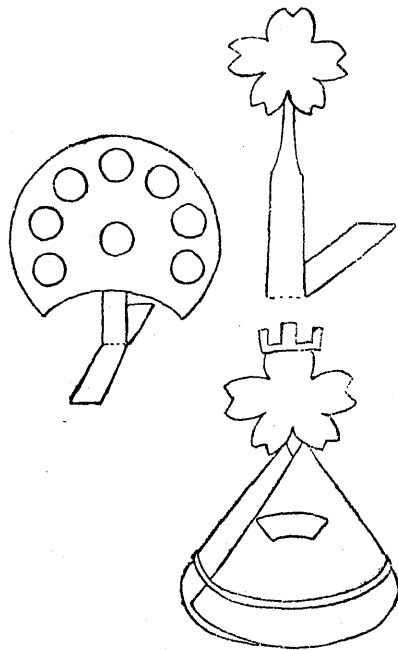
綠色で太鼓笛などの形を簡單に切つてはりつける。

櫻

桃色の紙を直經五センチに圓形に切つて下部の方を少しかき、畫用紙で裏うちして巾八ミリ長

さ四センチの長さのもの二枚を上部二センチだけはり合せて下部は畫用紙を前後に開きて立てる。

桃色の地へ同じ色の少し濃いので小さき丸をう



ちぬきたるを八つはる。

橘

綠色の紙を櫻と同様に作つて黄色の小さい丸をつける。

シネラリヤ

大岩金

六六

戶外にある草木も早いものはそろそろその芽が動き出しましたけれども、まだなかくち寒いので、多くは梅、寒椿、沈丁花などの花木の類で草物では開花してゐるものは至つて少ないのであります。それ故この一二月は室内で培養しましたもの

の觀賞即ち温室やフレームの最盛時なのであります。即ち温室内では外の寒さも知らぬ顔に今や春の眞盛りといはぬばかりに妍を競つて居るのであります。

先づ入室しまして人目を引きますのは、色とり／＼に花数も多いシネラリヤであります。その他シクラメン、プリムラ(櫻草)類、グロキジニヤ球根ベゴニヤ、フリージア、カーネーション、カ

ルセオラリヤ、スキートピア、蘭類など種々あります。そのうちでもシネラリヤはその栽培法の如何により最も長く觀賞し得られ又その栽培法も極めて容易でありますから今回はこのシネラリヤの栽培法を記述致します。

抑シネラリヤの語原はラテン語の灰色といふ言葉から出て居りましてこれは葉の裏に生えてゐる毛の色から出たものださうであります。菊科に屬し九百種ばかりの品種がありますが、現今園藝品種として栽培されて居りますのは二三種にすぎません。その中でも最も普通に栽培されて居りますのは *O. Orientus* の園藝品種であります。カナリ島が原産で花は野菊に似て種々の色があります

す。

栽培法

(イ) 播種

播種の時期はその開花の時期に依りまして一様ではなく六月から九月の間に播くのであります。それ故十二月頃から四五五月頃まで引續き開花させますにはその間一、二週日を置いて順次播種すればよいわけであります。八月中旬に播き木框ツツミ内で栽培致しましたものは三月下旬から咲き初めまして四月上中旬が丁度見頃になります。もつとも蕾のほころびかけました所を數日温室内に取り入れます時は忽ちにして爛漫として咲き揃ふのであります。

種子は菊やタンポポの如く極小さいのでありますから播種用の鉢に播くのであります。そして蒔土は腐葉土、壤土(畑土)砂を等分に交ぜた排水のよいものをえらぶのであります。而してなるべく

まばらに播く事が必要であります。その他覆土や鉢の土を硝子で覆ふてよく事などは他の草花の播種の時と同様であります。

(ロ) 發芽後の管理

夏の暑い時に發芽して成長するのでありますから充分の注意をはらはなければ、苗が應々にして枯れる事があります。即ち灌水なども夏だからといってあまりに多すぎないやうに注意しなければなりません。あまりに多すぎたり排水の悪い時には白黴が生えて、全部枯れるやうな事があります。又夏のうちは灌水後直射光線を當てないやうにする事も勿論であります。かく周到の注意を致しまして苗が次第に成長し本葉が二三枚出ましたならば第一回の移植を行います。その時蒔鉢から一本一本抜きとりますにも出来る丈丁寧に扱つて根を損さないやうにする事が大切であります。そして最初は二寸鉢位に移します。順次根のはるに

つれて大きな鉢に移すのでありますが、この仕事を鉢をゆるめると申して居ります。この鉢をゆるめるに適當した時期と申しますのは鉢の底をみまして、白い根の先が鉢底の穴から外にのぞき出てる時で、その時は既に根は鉢内全部にひろがつて、次の大なる鉢を要求してゐるのであります。かく致しまして三四回の移植をし最後の鉢を六寸位で植留するやうに致します。

移植の際に用ひます土は、腐葉土六、荒木田三砂〇・五、堆肥の小さいもの三、以上をよく碎き篩にかけて用ひるのであります。

(六) 温度

温室植物としましては最も低温度で生育する方に屬し、フレイムで而も冷床で充分育つのであります。只夜間四十五度内外の所に保温すればよいのであります。始めから丈夫に育てられたものでありますと、四十度内外でも平氣の様であります。

す。普通東京邊では嚴寒の候でも三重に被覆物をかければ四十度位には保たれるやうであります。

(七) 害虫

保温の關係上自然とフレイム内が蒸れ勝になり又植物も露地物に比較して虚弱でありますから、従つて害虫にも侵され易いのであります。わけても蚜蟲は最も多いのであります。この蚜蟲はおどろくばかりの繁殖力をもつて居りますから、一度發生しますと容易に驅除しつくし難いのであります。それに被害部の多くは新梢又の葉の裏面です。葉は大きく、而も葉柄はやゝもすれば折れ勝てあります。それで驅除劑と致しましても種々ありますが、中でも使用に手数を要せず、而も相當完全に驅除し得られると申しますのは、「ニコヒューム」の燻蒸であります。

一フレイム(幅四尺、長二間)に就き茶匙二杯位を皿に入れ點火するのであります。點火致しま

すれば、白煙を出して框内全部を覆ふのであります。而して皿は略桶内の中央部に置き、その周囲は方一尺四五寸位あけておくのであります。使用の時期は夕方覆物をする時がよろしく、やむなく晝間の日照時にしなければなりませんやうでしたらば、その時も前同様被覆物をもしてしまふのであります。

又このニコヒュームは濕り勝でありまして、是が保存によく密閉し得る器に入れておく事が必要であります。餘程注意致しましても長時日を経ますと、濕つてそのまゝでは點火し難くなりますから、この時はアルコールランプ或は他の方法で一旦乾かして使用しなければなりません。

(ホ) その他の管理

開花までに數回油粕の腐汁の様な液肥をやる事などは他の草花に異りません。

快晴、無風の日にはなるべくフレームの硝子を

開いて十分に日照と通風とをはかるのであります。

又早く開花させやうと望みますものも、始めから高温度の温室内に入れます時は、徒長のおそれがありますから、始めはフレームで充分にしまりあるものを育成し、開花前に温室内に移すやうにするのであります。

(ヘ) 開花

肥培もよろしく害虫驅除も充分に出来ましたものは、早播のもので十二月末頃からそろ／＼開花し初めまして、以後引續き五月頃まで觀賞し得られるのであります。

色とり／＼に花形も種々ありまして、而もよく一鉢に無数の花をつけます、その艶麗さは到底他の何物も及ぶ所ではありません。先づ色から申しますれば白、淡紅、牡丹、藤、濃淡紫、覆輪などほとんど黄を除きましたあらゆる色を有し、花形

から申しましても大小は勿論、カクタス咲なども
あります。

(ハ) 用途

切花としましても鉢植としましても用ひられま
すが、四月以後になりますれば花壇植としまして
も充分価値あるものであります。勿論幼児の方々
のお遊びの材料には色々の方面に利用出来ま事
と思ひます。

(ト) 採種

花が終るにつれまして灌水も控めにするのであ
ります。そのうちに次第に中央部にタンポ、様の
白毛を冠つた種子が出来るのであります。その頃
になりますと、毎日注意して採種しやうと思ふ分
丈を完熟したものから、順次採種するのでありま
す。放置しておきますれば風などのために吹きと
ばされてしまふのであります。集めました種子は
蔭干とし、冠毛は篩ひ捨てて来る播種期迄保存し
ておくのであります。

東京保育協會主催にて二月二日帝
國教育會館にて保育記念大會が開
催され盛會であつた

開會の辭 會長 林博太郎氏

一、記念品贈呈 葛原 幽氏

一、記念講演 小松 耕輔氏

一、(イ) 作歌について 梁 貞氏

一、(ロ) 作歌について 梁 貞氏

一、(イ) 獨唱 (童謠) 梁 貞氏

一、(イ) 獨唱 (童謠) 梁 貞氏

一、(イ) 獨唱 (童謠) 梁 貞氏

一、(イ) 獨唱 (童謠) 梁 貞氏

一、(イ) 獨唱 (童謠) 梁 貞氏

一、(イ) 獨唱 (童謠) 梁 貞氏

一、(イ) 獨唱 (童謠) 梁 貞氏

一、(イ) 獨唱 (童謠) 梁 貞氏

輪 あ そ び 律 動

Measures 1-4 of the piano accompaniment. The right hand features a steady eighth-note melody, while the left hand provides a rhythmic accompaniment with chords and single notes.

Measures 5-8 of the piano accompaniment. The right hand continues the eighth-note melody, and the left hand introduces a bass line with a flat (B-flat) in measure 5.

Measures 9-12 of the piano accompaniment. The right hand melody becomes more active with sixteenth-note patterns, and the left hand continues with chords and bass notes.

Measures 13-16 of the piano accompaniment. The right hand melody continues with eighth-note patterns, and the left hand maintains the accompaniment.

Measures 17-20 of the piano accompaniment. The right hand melody continues, and the left hand accompaniment features some rests in measures 18 and 19.

Measures 21-24 of the piano accompaniment. The right hand melody continues, and the left hand accompaniment features some rests in measures 22 and 23.

輪 あ そ び

土川五郎振

この遊戯に用ふる輪は籐にて直經一尺乃至一尺二寸位の輪を適當とす、或はこれに紅白二種の布を巻き紅を奇生白を偶生に持たしむるもよし。

第一、1……左足一步前につま先を床につけ兩手にて輪の兩側を持ち其一端を下げてつま先に近く出し

直ちに左足を引き輪を胸にとる（兩脇を兩側に引きて）

2……右足を前に輪の一端を右つま先に近く出し直ちに右足を引き輪を胸にとる。

3……奇偶兩生顔を向け輪を顔の前において互にのぞき輪を體前に持來り正面となる。

4……反對の生徒と顔を向き合せ輪をあげてのぞく。

5 6 7 8……「1 2 3 4」と同じことを繰返す。

9……左足一步前に體重を托し兩手に兩側を持てる輪を斜左上方にあげ顔を少しく上に向けて輪と相對する如くす。此運動は兩手を十分に伸ばすにあり。

10……右足一步前に「9」と同じくして輪を斜右上方にあげ顔を相對す。

11 12 ……「9 10」と同じ。

13 ……左足を十分に後ろに引くとき輪を體前下方より左上方（左腕を曲げ前膊を左肩の上に立て右手は腕を曲げて輪を握りたる手先を左肩の前にあぐ）にあげ輪を立つ様にかかげ右肩を下げ右肩より右足先の方へ顔を向く。

14 ……右足を大きく一步引き輪を體前下方より右上に引きあげ右手は「13」の左手と同じく右肩の上左手は右肩前に輪を握りて立てる。

15 16 ……「13 14」と同じくして二歩後退す。

17 18 ……奇偶兩生相對して後左へ三步駈足にて行き右に向きて奇偶兩生離れて相對す（此の時右手に輪をさげて兩手を振りつゝ駈足す）

19 20 ……兩手に持てる輪を顔の前にかげ之れより相手の方をのぞきつゝ兩手を互にあげさげすること三回。

21 22 ……右方へ駈足三步前と同じ。

23 24 ……左向きにて相對し輪を顔の前にして「19 20」と同じくす。

第二、

1 2 ……全生正面となり兩手に握れる輪を胸の前に（左右前膊が平らに前に出ずる様に）して右手左手

を交互に上下しつゝ四歩前進す。

3 4 ……同じくして四歩後退す。

5 ……左足を斜左前に大きく一步踏み出し輪を持てる兩手を斜左前（平らかに）突出す。

6 ……左足を引くと共に輪を胸に取る（兩腕を兩側に引きて）

7 ……右足を斜右前に大きく一步踏み出し兩手を斜右前に突き出す。

8 ……右足を引き輪を胸にとる。

9 ……左向をなし輪を胸にして駈足二歩。

10 ……前半小節 ……駈足更に一步。

後半節 ……左足に體重を托し上體を前に傾け輪を持てる兩手を前下方に突出す。

11 ……右足（後方の足）つま立てたるまゝ兩手に持てる輪を（手は曲げずに）頭上にあげ上體を後ろに
そる如くして輪の方へ顔を向く。

12 ……10節の後半節と同じく上體を前に屈し兩手は伸したるまゝ輪を前下方に出したる姿勢となる。

13 ……廻れ右をなし左足より駈足二歩。

14 ……前半節 ……更に一步。

後半節 ……「10」の後半節と同じくす。

- 15 ……「11」と同じくして輪を頭上にあげて上體を後に傾く。
- 16 ……上體を前に屈し、上げたる兩手を曲ぐる事なく前下方に輪を突き出す如き姿勢となる。
- 17 18 ……兩生相對し左へ三步駈足（輪を右手に下げて）右向して相對す。
- 19 ……輪を持てる兩手を頭上に上げて肘を曲げて輪をかぶる（頭を通して頸迄輪を下ぐ）
- 20 ……右足を引き禮をなしつゝ輪を持ちあげ頭より抜き前下方に下ぐ。
- 21 22 ……右方へ第一の如く駈足、前と同じく相對す。
- 23 24 ……右足を引き禮をなしつゝ輪をかぶし次に輪を抜きて前下方に下ぐ。

三ヶ月やふはりと梅に鶯が

茶

雜 錄

○久保氏の通信

巴 里 に て

幼稚園遊戯の研究家久保富次郎氏が巴里よりの通信の一節であります。久保氏は昨年九月出發歐米の體育殊に幼稚園遊戯を研究して居られます。本年五月十日頃歸朝の筈であります。(堀生)先生。

御無沙汰致しました、内地は御寒いことでございます。當巴里はあまり寒いと思ひませんが、東京の十月末位でせうか。まだ、私はメリヤスをきないで薄いシャツで居ります。さて、先生の御話の如く丁抹では極めてよい幼稚園の遊技をめぐつて十ばかりとりあへず、體育的に面白く作上げてみました。何れ御批評を仰ぎたいと存じます。ドイ

ッでは十六、丁抹で四つ、佛では四つの幼稚園をみました。それで、この手紙が先生の御元につく時分は、ロンドンに参ります。今回の視察(否、研究)では幼稚園に關することを出来るだけ取調べました。

日本では大抵の幼稚園(御園は知りませんが)の遊技といへば、表情遊技、律動遊技(この名前は當らず専門的でない、かりにいひます)と自由遊技であらうと思ひます。私は常に、次の疑問をもつて居ります。

- 一、幼稚園の遊技科のうちにもつと體育的教材の分子を入れなければならぬ。
- 二、もつと幼兒に、自由に、束縛せずして遊技させなければならぬ。
- 三、形にはまつた遊技はなるべく少くしてほしむ。

私は今回の研究旅行でますますこの信念を固く

いたしました。

それで私は、

(1)表情遊技(唱歌遊技)はもつと情的に走らずして自由活動の天地のある、最も幼児らしいものをとらなければならぬ。

(2)幼稚園の體育的ダンスといふ、もつともやさしい運動の量の多い。幼稚園児の頭をつかはない。ピアノのいらぬ。自由活動天地の多いものを考案しました。

何れ先生に御批評いたゞくつもりで居ります。

東京高等女子師範學校の

○保育實習科生徒募集

一、募集人員 凡二十四名

二、出願手續 左記書類其ノ他ヲ差出シ

1 推薦書 2 入學志願票 3 履歴書

4 最近二ヶ年間ノ成績調査人物考定書

5 身體検査書 6 最近ノ戶籍謄本

7 寫眞(最近三ヶ月以内ニ單身撮影シタル手札

形ノモノ)

8 入學檢定料(金參圓)

三、出願期限 自昭和五年二月一日

至同 三月十日

四、選拔試験科目及其ノ日時

1 科目 國語(解釋、作文) 理科(植物)

圖畫(自在畫)

2 日時 本年三月二十日左ノ時間割ヲ以テ之ヲ

施行ス

自午前八時三十分 至同 九時二十分 國語

自同 九時三十分 至同 十時十分 理科

自同 十時二十分 至同 十一時十分 圖畫

五、口頭試問及身體検査ノ日時

三月二十日午前十一時三十分ヨリ

詳細は一月二十七日の官報にあり。

定 規 文 注 告 真

- 一、幼稚園及び小學校、家庭、育児、看護等に關する論說調査研究等の寄稿を歓迎いたします。
 - 一、寄稿は一行二十四字詰に記して下さい。但改行は一字下げること、また句讀點は一字あけること。
 - 一、寄稿並に本誌の編輯に關する通信、紹介及び寄贈の新刊書、交換雜誌、入會手續、更に本誌の購讀及び廣告に關する通信並に照會等一切左記編輯兼發行所宛に願ひます。
- 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
日本幼稚園協會**
- 一、本誌御注文の方は凡て前金（郵税共）で願ひます。（郵便代用の場合には總て一割増）
 - 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
 - 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
 - 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
 - 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に『前金切』の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
 - 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

告 廣

特等面一頁 金參拾圓
 二等面一頁 金貳拾圓
 一等面一頁 金貳拾五圓
 一頁以下御斷
 神田區南甲賀町八品田與松に御申込下さい。

發 行 所

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
日本幼稚園協會
 振替口座東京一七二六六番

不 許 複 製
 禁 轉 載

編輯兼 發行者 堀 七 藏
 東京府豊多摩郡戸塚町大字戸塚五七五
 東京市麹町區飯田町二丁目五十番地
 印刷者 須 藤 紋 一
 印刷所 京華社印刷所

昭和五年二月十二日印刷納本
 昭和五年二月十五日發行
 幼兒の教育 第三十卷第二號

價 定

一ヶ月分一冊	金參拾五錢	送料壹錢
半ヶ年分六冊	金貳圓拾錢	送料共
一ヶ年分十二冊	金四圓貳拾錢	送料共

（外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい）

親切で行届いた

長尾豊先生のお話集

長尾先生のお話集は、どれでもみんな一々のお話に就てすぐ役立つ仕方がつけられてあります。更にお話を土臺にして劇に直したり遊戯にする仕方も附せられ、單に長尾先生の本一冊をよんですぐ役に立つ許りでなく、他のどんな童話集をも自由に扱へる肝心のコツがわかるといふので、大變讚辭を戴いてゐます。

一昨年のお話集には「お話あそびと小さい劇」昨年更に「短い對話と小さい劇」が最も多く讀まれた書物として推奨され、茗溪會からも「國語教材お話集」「幼稚園はなし」「短い對話と小さい劇」など推獎を受けてゐます。

教材としても、お話の仕方集としても極めて便利で行届いた書物として下は幼稚園兒童から、上は高學年兒童に至るまで、お話と遊戯の時間には是非本書を御利用下さい。

序文・青木誠四郎、堀七藏兩先生

幼稚園ばなし

第一集 各册四六判約二七〇頁函入
第二集 價各一圓八十錢 送十二錢

序文・亙理章三郎先生

祝祭日お話集

四六判三一〇頁 價二圓 送十二錢
序文・巖谷小波、島崎藤村兩先生

國語讀本教材お話集

尋一篇 四六判 各册三百頁 函入
尋二篇 價各一圓八十錢 送十二錢

序文・保科孝一先生

短い對話と小さい劇

序文・廣島高師長田新先生

お話遊びと小さい劇

四六判函入 價各一圓六十錢
約二八〇頁 送料十二錢

序文・木下一雄先生

續 短い對話と小さい劇

四六判函入 價一圓八十錢
二九〇頁 送料十二錢

序文・小山内薫先生

歌と戯曲化と作品集

四六判三百餘頁價一・八〇送・一二

序文・醫學博士岡田道一先生

野外夏季學校お話集

四六判三百頁 價一・八〇送・一二

唱歌あそびと

小さい唱歌劇

本居長世氏序
長尾豊先生著
草川信氏作曲

好 菊判 美裝 函入
評 價二圓送十二錢

唱歌劇の綜合化!

兒童劇の隆盛に伴ひ當然改革せらるべき唱歌あそび並びに唱歌劇を實際作品十五篇につき其あそび方並に研究の實例を示した最新書。

店書閣生厚

八四町番六下町麴京東
番〇〇六九五京東替振

廣島高等師範學校教授

文學博士

久保良英先生新著

四六判全一冊洋銀
定價金貳圓 送料金十八錢

新刊

愛兒良毅の教養

本書の全文は悉く眞摯なる學者の兒童教養實驗記録で有

久保博士の令息良毅君は僅か九歳の年齒を享けて其餘りに短き生涯を終られた。……博士は本書自序の一節に「良毅は私の學位論文の中の言語の發達の資料を供給して呉れた」とある如く、君は其生前、博士の兒童研究のよき伴侶でありよき對象であつた。博士は今其悼み、其悲み、其涙を新にして以て本書を著す。且又「彼の生立の全部を心理學的に記述して多少なりとも彼の此世に於る存在の意義を更に深め度い」と敬虔なる學者的願望を述べられて綴られた本書の一字一句は兒童研究としての學的價値は言ふに及ばず、尙且貴重なる育兒の記録として總ての教育家及師父に裨益する所多しと信ず、御必讀を乞ふ。

文學博士

久保良英著

實驗心理學精義

好評赫赫

三版 簡單なる行動篇
三版 複雑なる行動篇

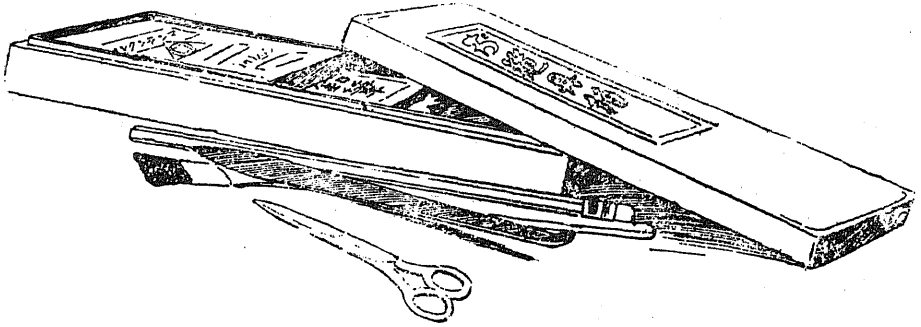
菊判全一冊紙版八百頁挿圖貳百
定價金六圓 送料金廿七錢
菊判全一冊紙版八百頁挿圖貳百
定價金六圓 送料金廿七錢

久保博士の實驗心理學精義は蓋し學界の至寶である。日本唯一の施設兒童研究所を創設し鋭意研究として、實驗心理學の檢討に餘念なき著者は前篇簡單なる行動篇、後篇複雑なる行動篇を著しその蒐集方法は量的及質的兩者交互に説教し未決の問題は之れを未決の問題として貳し、且つその結果相背馳せるものに對しては決して獨斷の私見を取らず、終始一貫純正なる學者的立場より世界の心理學者が開拓せし所、又はせんとする所を周到懇切に詳述せるものなるを以て書中最新學說の充滿せる事は言を俟たず、且つ本書述の最も特長とする所は其の研究發表が、唯單に學的的研究の標的たる止むべき實際的處在方面に多大の意を注ぎたる點で、學校教育家、軍隊、特務管理業者等すべての集團的當事者に取つても必ず學的の指針として貴重なるものである。如上關係者の外文檢受驗者の必讀すべき資料たり必讀を乞ふ。

發行所 東京市牛込區中區文館書店 電話 五二七番

東 京 女 子 高 師 附 屬 幼 稚 園 御 創 案

お 道 具 箱



◎園児方に御買はせ下さい◎

日本幼稚園協會編

◆**ヌリエ**——輪廓を出さない様にクレオンで塗ると云ふ作業が、養細筋の練習となり、やがて總ての作業の素地を作るのであります。本年は色刷の塗方見本を添えます。

◆**自由畫帳**——幼児をして自由自在に繪を描かせる、瀟洒たる冊子、四十頁綴、内十二頁色畫紙。
定 價 一號・二號共 金 三 十 錢

東京女子高師附屬幼稚園御創案
◆**お道具箱**——クレオン、鉛筆、糊ばけ、粘土ペラ、ノリペラ、鉄等を収めた丈夫で美しい整理箱。園児にも父兄にも必ず喜ばれる品。
定 價 大 金 九 十 錢 小 金 六 十 錢

お道具箱とぬり糸の由来

倉橋惣三氏の談

「お道具箱」や「ぬり糸」を、東京女高師附屬幼稚園で、使はせ初めたのは私であります。是等は入園の際に保護者に話して各自に買はせるのであります。これについては凡一左の三つの理由を挙げる事が出来ます。

- 一、此の費用を材料費に充つ
 - 一、自己所有物に對する訓練
 - 一、幼稚園終了後の記念品とする
- 右等の意味に於て私は常に、お道具箱や、ぬり糸、並に自由畫帳を、各自に買はせる様常に奨励してゐるのであります。

發 賣 元

株式會社 フレーベル館
東京・神田・一橋通(教育會館内)

電話九段(御註文用) 三・八二七
三四五・三六三七・三六四八
振替 東京 一九六四〇

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
(毎月一回十五日發行)

昭和五年二月十二日印刷納本
昭和五年二月十五日發行

定價三十五錢